シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	演習	科目名	保育実践演習		
必修選択	選択	(学則表記)	保育実践演習		
開講				単位数	時間数
年次	3年	学科	こども総合学科	2	60
使用教材	０～５歳児の発達にあったあそびパーフェクトＢＯＯＫ		出版社	ナツメ社	

科目の基礎情報②	
授業のねらい	実際の保育現場における設定保育や園行事の運営を模擬的に体験し、行事の成り立ちを理解し、留意点に気づく。 子どもの育ちと遊びの関連性について理解し、具体的な遊びを立案、実践できる。
到達目標	①指定保育士養成施設における教育課程の全体を通して、保育士として必要な保育に関する専門的知識及び技術、幅広く深い教養及び総合的な判断力、専門職としての倫理観などが習得、形成されたか、自らの学びを振り返り把握する。 ②保育実習等を通じた自らの体験や収集した情報に基づき、保育に関する現代的課題についての現状を分析し、その課題への対応として保育士、保育の現場、地域、社会に求められることは何か、多様な視点から考察する力を習得する。 ③①及び②を踏まえ、自己の課題を明確化し、保育の実践に際して必要となる基礎的な資質・能力の定着をさせる。
評価基準	授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果(70%)および授業態度と参加の積極性(30%)を踏まえ、総合的な観点で評価する。
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者。成績評価が3以上の者。
関連資格	
関連科目	実習指導Ⅲ
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。
担当教員	新谷　和委
実務経験	○
実務内容	幼稚園にて幼稚園教諭として勤務(６年)

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	・授業ガイダンス	・授業概要、ねらい等の説明 ・1年生の授業の振り返り
2	・遊びのどうしよう？対処法 ・第1章　ふれあいあそび	・あそびの中での「どうしよう」について考える ・あそびから育ちを知る
3	・第1章　ふれあいあそび	・ふれあいあそびの立案、準備 ・ふれあいあそびの模擬保育(グループ内発表)
4	・第1章　ふれあいあそび	・ふれあいあそびの模擬保育(全体発表) ・ふれあいあそび振り返り、発表フィードバック
5	・模擬行事①	・行事運営の成り立ち、役割等の解説、導入。 ・グループごとに演目・種目の立案、準備
6	・模擬行事①	・模擬行事の準備
7	・模擬行事①	・模擬行事の準備 ・模擬行事の実施

8	・模擬行事①	・模擬行事の実践 ・模擬行事振り返り、フィードバック
9	・第2章　運動あそび	・あそびから育ちを知る ・年齢に応じた運動あそびについて知る・立案
10	・第2章　運動あそび	・運動あそびの立案、準備 ・運動あそびの模擬保育
11	・第2章　運動あそび	・運動あそびの模擬保育(グループ内発表) ・運動あそびの模擬保育(全体発表)
12	・第2章　運動あそび	・運動あそびの模擬保育(全体発表) ・運動あそび振り返り、発表フィードバック
13	・模擬行事②	・行事運営の成り立ち、役割等の解説、導入。 ・グループごとに演目・種目の立案、準備
14	・模擬行事②	・模擬行事の準備
15	・模擬行事②	・模擬行事の準備
16	・模擬行事②	・模擬行事の準備
17	・模擬行事②	・模擬行事の準備
18	・模擬行事②	・模擬行事の実践 ・模擬行事振り返り、フィードバック
19	・第4章　造形あそび	・あそびから育ちを知る ・年齢に応じた造形あそびについて知る・立案
20	・第4章　造形あそび	・造形あそびの立案、準備 ・造形あそびの模擬保育(グループ内発表)
21	・第4章　造形あそび	・造形あそびの模擬保育(全体発表) ・造形あそび振り返り、発表フィードバック
22	・模擬行事③	・行事運営の成り立ち、役割等の解説、導入。 ・グループごとに演目・種目の立案、準備
23	・模擬行事③	・模擬行事の準備
24	・模擬行事③	・模擬行事の準備
25	・模擬行事③	・模擬行事の準備
26	・模擬行事③	・模擬行事の実践 ・模擬行事振り返り、フィードバック
27	・知育おもちゃ＆感覚おもちゃ作り	・実際の園で使える「知育おもちゃ」や「感覚おもちゃ」について学び、各自で作る
28	・知育おもちゃ＆感覚おもちゃ作り	・他の人の作った「知育おもちゃ」と「感覚おもちゃ」の完成品を観覧して省察する。
29	・ちょこっとあそび	・ちょこっとあそびについて ・ちょこっとあそびの発表、振り返り
30	・年間授業振り返り	・7つのあそびから育ちを知る振り返り ・年間の模擬保育、模擬行事の振り返り、フィードバック

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	演習	科目名	子どもの安全管理		
必修選択	選択	（学則表記）	子どもの安全管理		
開講				単位数	時間数
年次	3年	学科	こども総合学科	1	30
使用教材	写真で学ぶ　保育現場のリスクマネジメント		出版社	中央法規出版	

科目の基礎情報②	
授業のねらい	実践的な傷害予防を身につける
到達目標	子どもの事故予防として、効果のない方法と効果のある方法の違いを知る どのようにすれば事故を予防できるのかを具体的に考え、行うことができる。
評価基準	授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果(70%)および授業態度と参加の積極性(30%)を踏まえ、総合的な観点で評価する。
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者。成績評価が3以上の者。
関連資格	
関連科目	
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。
担当教員	針尾　茜
実務経験	○
実務内容	認定こども園にて保育教諭として勤務(７年)

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	第1章　リスクマネジメントって何？	保育とリスクの関係
2	第1章　リスクマネジメントって何？	リスクって何だろう？
3	第1章　リスクマネジメントって何？	リスクと向き合おう 園のリスクマネジメント
4	第1章　リスクマネジメントって何？	リスクマネジメントのポイント ワーク（①遊具・物　②日常の風景）
5	第1章　リスクマネジメントって何？	リスクの予防　①人から考える
6	第1章　リスクマネジメントって何？	リスクの予防　②物から考える
7	第1章　リスクマネジメントって何？	保育者の役割
8	第２章　場面別　リスクの予防と対策	開園準備 登園
9	第２章　場面別　リスクの予防と対策	園児の受け入れ 保育環境の準備

10	第２章　場面別　リスクの予防と対策	異年齢保育 ワーク（③横断歩道）
11	第２章　場面別　リスクの予防と対策	全体保育 職員間の申し送り
12	第２章　場面別　リスクの予防と対策	屋外から室内への移動 園内での移動
13	第２章　場面別　リスクの予防と対策	ワーク（④総合遊具
14	第２章　場面別　リスクの予防と対策	活動の種類による対応①　室内での設定保育（制作活動） 活動の種類による対応②　室内での設定保育（遊び）
15	第２章　場面別　リスクの予防と対策	活動の種類による対応③　設定保育（園庭での活動）
16	第２章　場面別　リスクの予防と対策	散歩・移動
17	第２章　場面別　リスクの予防と対策	公園
18	第２章　場面別　リスクの予防と対策	トイレ・手洗い場
19	第２章　場面別　リスクの予防と対策	昼食
20	第２章　場面別　リスクの予防と対策	歯みがき
21	第２章　場面別　リスクの予防と対策	午睡
22	第２章　場面別　リスクの予防と対策	ワーク（⑤給食）
23	第２章　場面別　リスクの予防と対策	おやつの時間
24	第２章　場面別　リスクの予防と対策	降園
25	第２章　場面別　リスクの予防と対策	異年齢保育・延長保育 閉園作業
26	第３章　災害へのリスクマネジメント	災害と園 日常の災害対策　①対応マニュアルの整備
27	第３章　災害へのリスクマネジメント	日常の災害対策　②避難訓練　③保育環境の整備
28	第３章　災害へのリスクマネジメント	日常の災害対策　④地域とのかかわり
29	第４章　保護者とともに確保する子どもの安全	保護者の役割とは？
30	第４章　保護者とともに確保する子どもの安全	園の取り組みを家庭・地域に発信する

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	演習	科目名	子どもの文化		
必修選択	選択	(学則表記)	子どもの文化		
開講				単位数	時間数
年次	3年	学科	こども総合学科	1	30
使用教材	たっぷり！年中行事シアター*1		出版社	ひかりのくに株式会社	

科目の基礎情報②	
授業のねらい	体験を通して児童文化のおもしろさと役割を理解し、実践力を身につける。
到達目標	①様々な児童文化財を実際に制作し、活用できる。 ②保育現場における具体的展開のための技術を習得する。 ③子どもの生活と遊びを豊かに創造できる保育者について考察する。
評価基準	授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果(70%)および授業態度と参加の積極性(30%)を踏まえ、 総合的な観点で評価する。
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者。成績評価が3以上の者。
関連資格	
関連科目	
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。
担当教員	三浦　美保
実務経験	○
実務内容	保育園にて保育士として勤務(７年１１か月)、保育園にて園長として勤務(１年)、児童館にて児童指導員として勤務(２年)

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	授業の流れ・到達目標・評価について解説
2	児童文化とは	児童文化についての講義
3	春の行事①	絵本・紙芝居の紹介
4	春の行事②	保育グッズ制作
5	春の行事③	保育グッズ制作
6	春の行事④	保育グッズ制作
7	春の行事⑤	保育グッズ発表
8	児童文化施設とは①	児童文化施設についての講義 グループで地域の文化施設を調べる
9	児童文化施設とは②	「地域の文化施設を紹介しよう」のテーマでグループ発表

10	夏の行事①	絵本・紙芝居の紹介
11	夏の行事②	保育グッズ制作
12	夏の行事③	保育グッズ制作
13	夏の行事④	保育グッズ制作
14	夏の行事⑤	保育グッズ発表
15	前期のまとめ	前期の振り返り
16	秋の行事①	絵本・紙芝居の紹介
17	秋の行事②	保育グッズ制作
18	秋の行事③	保育グッズ制作
19	秋の行事④	保育グッズ制作
20	秋の行事⑤	保育グッズ発表
21	伝承遊び①	わらべうた、数え歌、等の基礎知識や保育との関わりを調べる
22	伝承遊び②	かるた、すごろく、福笑い、コマ回し、凧揚げ、等の基礎知識や保育との関わりを調べる
23	冬の行事①	絵本・紙芝居の紹介
24	冬の行事②	保育グッズ制作
25	冬の行事③	保育グッズ制作
26	冬の行事④	保育グッズ制作
27	冬の行事⑤	保育グッズ発表
28	伝承遊び③	折り紙、あやとり、お手玉、等の基礎知識や保育との関わりを調べる
29	ゲーム・言葉遊び	パズル、しりとり、なぞなぞ、等の基礎知識や保育との関わりを調べる
30	総まとめ	1年間の振り返りと今後の課題について考える

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	演習	科目名	造形表現Ⅲ		
必修選択	選択	(学則表記)	造形表現Ⅲ		
開講				単位数	時間数
年次	3年	学科	こども総合学科	2	60
使用教材	なし			出版社	なし

科目の基礎情報②	
授業のねらい	①造形表現を通じて、保育者として子どもたちの感性を培うことができるようになる。 ②保育者として必要な造形に関する知識教養を身につけ、子どもの造形活動を行えるようになる。
到達目標	①幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を踏まえ、指導計画を立てることができるようになる。 ②造形技法、道具・素材を使って、保育教材を作成し保育に活かすことができるようになる。 ③様々な造形表現の基礎知識・技能をいかし、子どもの表現活動に展開させることができるようになる。
評価基準	授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果(70%)および授業態度と参加の積極性(30%)を踏まえ、 総合的な観点で評価する。
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者。成績評価が3以上の者。
関連資格	
関連科目	造形表現Ⅰ・造形表現Ⅱ
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。
担当教員	中原　明美
実務経験	○
実務内容	幼稚園にて幼稚園教諭として勤務(１３年)

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	授業「造形表現」の概要及び年間計画提示
2	幼児造形教育の方法①	素材からの造形表現・描画材の種類Ⅰ（絵の具・クレパス）（造形表現Ⅰ・Ⅱの復習）と技法指導
3	幼児造形教育の方法②	素材からの造形表現・描画材の種類Ⅱ（マーカー・ペン・色鉛筆他）（造形表現Ⅰ・Ⅱの復習）と技法指導
4	幼児造形教育の方法③	紙の素材と種類・描画等への活用
5	幼児造形教育の方法④	紙とハサミの指導法実践
6	幼児造形教育の方法⑤	接着（のり・木工用ボンド・ホッチキス・セロハンテープ）の種類及び指導法実践
7	幼児造形教育の方法⑥	子どもの表現を生み出す人的環境としての保育者の役割理解
8	幼児造形教育への実践①	保育教材研究（イメージを豊かにする）
9	幼児造形教育への実践②	イメージを豊かにする保育教材の作成

10	幼児造形教育への実践③	イメージを豊かにする保育教材の作成
11	幼児造形教育への実践④	イメージを豊かにする保育教材の作成
12	幼児造形教育への実践⑤	イメージを豊かにする保育教材の作成
13	幼児造形教育の方法と実践①	保育教材を活用した保育の指導案の作成
14	幼児造形教育の方法と実践②	保育教材を使用した模擬保育
15	幼児造形教育の方法と実践③	保育教材を使用した模擬保育
16	幼児造形教育への実践⑥	子どもの発達と造形について（造形表現Ⅰ・Ⅱの復習と展開）
17	幼児造形教育への実践⑦	子どもの発達と造形についての学びを保育に活かす（造形表現Ⅰ・Ⅱの展開）
18	幼児造形教育への実践⑧	子どもの発達と造形についての学びを保育に活かす（造形表現Ⅰ・Ⅱの展開）
19	幼児造形教育への実践⑨	季節や行事を感じる造形表現の制作
20	幼児造形教育への実践⑩	季節や行事を感じる造形表現の制作
21	幼児造形教育への実践⑪	季節や行事を感じる造形表現の制作の発表
22	幼児造形教育への実践⑫	色々な材料の造形（素材を活かした表現）
23	幼児造形教育への実践⑬	色々な材料の造形（素材を活かした表現）
24	幼児造形教育への実践⑭	色々な材料の造形（素材を活かした表現）
25	幼児造形教育への実践⑮	色々な材料の造形（素材を活かした表現）
26	幼児造形教育への実践⑯	色々な材料の造形（素材を活かした表現）
27	幼児造形教育への実践⑰	色々な材料の造形の指導案作成
28	幼児造形教育の方法と実践⑤	色々な材料の造形の模擬保育
29	幼児造形教育の方法と実践⑥	色々な材料の造形の模擬保育
30	まとめ・振り返り	1年間のまとめと振り返り

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	演習	科目名	音楽表現Ⅴ		
必修選択	選択	(学則表記)	音楽表現Ⅴ		
開講				単位数	時間数
年次	3年	学科	こども総合学科	2	60
使用教材	実用版ようちえんほいくえんのうた大集合		出版社	デプロMP	

科目の基礎情報②	
授業のねらい	弾き歌いを通し、より実践的な技術を身につける。
到達目標	簡易伴奏やコード伴奏でも、歌いながら両手で演奏できる。
評価基準	授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果(70%)および授業態度と参加の積極性(30%)を踏まえ、総合的な観点で評価する。
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者。成績評価が3以上の者。
関連資格	
関連科目	音楽表現Ⅰ・音楽表現Ⅱ・音楽表現Ⅲ・音楽表現Ⅳ・音楽表現Ⅵ
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。
担当教員	木下　亜紀
実務経験	
実務内容	

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	授業の目的、流れ、ルール等について
2	あそびうた	あそびうたに親しみ、弾き歌い練習
3	あそびうた	あそびうたに親しみ、弾き歌い練習
4	あそびうた	あそびうたに親しみ、弾き歌い練習
5	どうよう	童謡、季節の歌、行事の歌弾き歌い練習
6	どうよう	童謡、季節の歌、行事の歌弾き歌い練習
7	どうよう	童謡、季節の歌、行事の歌弾き歌い練習
8	どうよう	童謡、季節の歌、行事の歌弾き歌い練習

9	どうよう	童謡、季節の歌、行事の歌弾き歌い練習
10	どうよう	童謡、季節の歌、行事の歌弾き歌い練習
11	どうよう	童謡、季節の歌、行事の歌弾き歌い練習
12	どうよう	童謡、季節の歌、行事の歌弾き歌い練習
13	人気・定番曲	人気曲の弾き歌い練習
14	人気・定番曲	人気曲の弾き歌い練習
15	発表・まとめ	これまで学習した曲から弾き歌い
16	人気・定番曲	定番曲、子どもの歌弾き歌い練習
17	人気・定番曲	定番曲、子どもの歌弾き歌い練習
18	人気・定番曲	定番曲、子どもの歌弾き歌い練習
19	新沢としひこ作品	新沢としひこ作品に親しみ、弾き歌い練習
20	新沢としひこ作品	新沢としひこ作品に親しみ、弾き歌い練習
21	新沢としひこ作品	新沢としひこ作品に親しみ、弾き歌い練習
22	新沢としひこ作品	新沢としひこ作品に親しみ、弾き歌い練習
23	新沢としひこ作品	新沢としひこ作品に親しみ、弾き歌い練習
24	クリスマス	クリスマスの曲、弾き歌い練習
25	クリスマス	クリスマスの曲、弾き歌い練習
26	クリスマス	クリスマスの曲、弾き歌い練習
27	卒園式	卒園の歌、弾き歌い練習
28	卒園式	卒園の歌、弾き歌い練習
29	卒園式	卒園の歌、弾き歌い練習
30	発表・まとめ	これまで学習した曲から弾き歌い

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	演習	科目名	音楽表現Ⅵ		
必修選択	選択	(学則表記)	音楽表現Ⅵ		
開講				単位数	時間数
年次	3年	学科	こども総合学科	2	60
使用教材	”体を楽器”にした音楽表現リズム＆ゲームにどっぷり！リトミック77選 保育で使える合奏楽譜ベストセレクション		出版社	明治図書 ひかりのくに	

科目の基礎情報②	
授業のねらい	リトミックの考えを学び、子どもの音楽表現に役立てる。 合奏の指導技術を身に付ける。
到達目標	リトミックの意義を理解し、音楽を身体で表現することができる。 楽器の指導法を理解し、指導ができる。
評価基準	授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果(70%)および授業態度と参加の積極性(30%)を踏まえ、総合的な観点で評価する。
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者。成績評価が3以上の者。
関連資格	
関連科目	音楽表現Ⅰ・音楽表現Ⅱ・音楽表現Ⅲ・音楽表現Ⅳ・音楽表現Ⅴ
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。
担当教員	田中　恵子
実務経験	
実務内容	

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	リトミックの考え方	音楽と動き
2	からだのなかの音楽	からだの中から生まれる音楽
3	ビートにのろう	拍の中のアクセント
4	ビートにのろう	拍の中のアクセント
5	ビートにのろう	拍の中のアクセント
6	拍子を感じよう	拍子の体感と表現
7	拍子を感じよう	拍子の体感と表現
8	拍子を感じよう	拍子の体感と表現

9	フレーズ・呼吸・空間	リズムや旋律のまとまりを動く
10	フレーズ・呼吸・空間	リズムや旋律のまとまりを動く
11	ロープdeゲーム	イメージ遊び
12	対話を楽しもう	即興演奏
13	歌＆楽器deゲーム	音楽の会話
14	リトミック活動のまとめ	指導計画立案と発表
15	リトミック活動のまとめ	リトミックで学んだことの確認とまとめ
16	幼児の器楽合奏について 2歳児の器楽合奏	幼児の器楽合奏における留意点と指導法 2歳児の発達と音楽
17	２歳児の器楽合奏	器楽合奏の実践と指導
18	３歳児の器楽合奏	3歳児の発達音楽
19	３歳児の器楽合奏	器楽合奏の実践と指導
20	2・3歳児のまとめ	指導計画立案
21	2・3歳児のまとめ	模擬指導の実践
22	4歳児の器楽合奏	4歳児の発達と音楽
23	4歳児の器楽合奏	器楽合奏の実践と指導
24	4歳児の器楽合奏	器楽合奏の実践と指導
25	5歳児の器楽合奏	5歳児の発達と音楽
26	5歳児の器楽合奏	器楽合奏の実践と指導
27	5歳児の器楽合奏	器楽合奏の実践と指導
28	5歳児の器楽合奏	器楽合奏の実践と指導
29	幼児の器楽合奏のまとめ	演奏発表会計画
30	幼児の器楽合奏のまとめ	演奏発表・まとめ

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	演習	科目名	プレゼンテーション		
必修選択	選択	(学則表記)	プレゼンテーション		
開講				単位数	時間数
年次	3年	学科	こども総合学科	2	60
使用教材	なし		出版社		

科目の基礎情報②			
授業のねらい	保育士・幼稚園教諭として相応しいプレゼンテーションスキルを理解する。		
到達目標	保育士・幼稚園教諭として相応しい言葉遣いで保護者向けの説明を行うことができる。 実習の学びについてのプレゼンテーションを行うことができる。 自身の所属するコースの学びについてのプレゼンテーションを行うことができる。		
評価基準	授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果(70%)および授業態度と参加の積極性(30%)を踏まえ、総合的な観点で評価する。		
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者。成績評価が3以上の者。		
関連資格			
関連科目			
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。		
担当教員	松尾　遥奈　他１名	実務経験	○
実務内容	幼稚園にて幼稚園教諭として勤務（２年８ヶ月）		

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	授業の流れ、到達目標、成績評価の基準について説明。 プレゼンテーションの必要性を考える。
2	PPTにおけるプレゼンテーション①	PPTにおけるプレゼンテーション手法を理解する。PPTに触れる①
3	PPTにおけるプレゼンテーション②	PPTにおけるプレゼンテーション手法を理解する。PPTに触れる②
4	自己紹介内容の作成①	自己紹介の内容を構成し、資料を作成する①
5	自己紹介内容の作成②	自己紹介の内容を構成し、資料を作成する②
6	自己紹介内容の発表①	クラス内での発表①
7	自己紹介内容の発表②	クラス内での発表②
8	各種業界の特性紹介の作成①	「幼稚園」「保育園・保育所」「社会的養護施設」の特性紹介の作成①
9	各種業界の特性紹介の作成②	「幼稚園」「保育園・保育所」「社会的養護施設」の特性紹介の作成②

10	各種業界の特性紹介の発表①	クラス内での発表①
11	各種業界の特性紹介の発表②	クラス内での発表②
12	保育の現代的な課題の調べ学習①	現代の子どもたちを取り巻く環境や保育業界の課題について調べる①
13	保育の現代的な課題の調べ学習②	現代の子どもたちを取り巻く環境や保育業界の課題について調べる②
14	保育の現代的な課題の調べ学習③	現代の子どもたちを取り巻く環境や保育業界の課題について調べる③
15	総まとめ①	前期の振り返りとまとめを行う。
16	保育の現代的な課題の発表①	クラス内での発表①
17	保育の現代的な課題の発表②	クラス内での発表②
18	コースの学びのプレゼンテーション作成①	専門コースでの学びをどう活かすかを踏まえたプレゼンテーションを作成する①
19	コースの学びのプレゼンテーション作成②	専門コースでの学びをどう活かすかを踏まえたプレゼンテーションを作成する②
20	コースの学びのプレゼンテーション作成③	専門コースでの学びをどう活かすかを踏まえたプレゼンテーションを作成する③
21	コースの学びのプレゼンテーション作成④	専門コースでの学びをどう活かすかを踏まえたプレゼンテーションを作成する④
22	コースの学び発表会①	コースの学び発表会①
23	コースの学び発表会②	コースの学び発表会②
24	コースの学び発表会④	コースの学び発表会③
25	実習園・就職園の紹介作成①	実習園や就職園の特徴、実習の流れ、面接の内容などをまとめた資料を作成する①
26	実習園・就職園の紹介作成②	実習園や就職園の特徴、実習の流れ、面接の内容などをまとめた資料を作成する②
27	実習園・就職園の紹介作成③	実習園や就職園の特徴、実習の流れ、面接の内容などをまとめた資料を作成する③
28	実習園・就職園の紹介発表①	クラス内での発表①
29	実習園・就職園の紹介発表①	クラス内での発表②
30	総まとめ②	後期と年間の振り返りと総まとめを行う

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	演習	科目名	実習指導Ⅲ		
必修選択	選択	(学則表記)	実習指導Ⅲ		
開講				単位数	時間数
年次	3年	学科	こども総合学科	2	60
使用教材	なし		出版社	なし	

科目の基礎情報②			
授業のねらい	保育実習の意義を理解し、実習に必要な知識、技能、心構えを身に付ける。 保育者としての専門性をより高める。		
到達目標	①保育実習の意義と目的を理解し、保育について総合的に学ぶ。 ②実習や既習の教科の内容やその関連性を踏まえ、保育実践力を培う。 ③保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について実践や事例を通して学ぶ。 ④保育士の専門性と職業倫理について理解する。 ⑤実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。		
評価基準	授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果(70%)および授業態度と参加の積極性(③0%)を踏まえ、総合的な観点で評価する。		
認定条件	出席が総時間数の③分の2以上ある者。成績評価が③以上の者。 保育実習Ⅰ(保育所)・保育実習Ⅱ又はⅢの単位を取得している者。		
関連資格			
関連科目	実習指導Ⅰ・実習指導Ⅱ・保育実習Ⅰ(保育所)・保育実習Ⅱ・保育実習Ⅲ		
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。		
担当教員	田中　友梨　他１名	実務経験	○
実務内容	幼稚園にて幼稚園教諭として勤務（１０年）		

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	授業ガイダンス 保育実習の概要	保育実習について
2	保育実習日誌の書き方	保育実習日誌の書き方　復習　０～２歳児の発達と配慮点について
3	保育実習日誌の書き方	実習日誌全項目の内容確認
4	責任実習指導案作成	責任実習での具体的配慮や書き方を確認する
5	部分実習指導案作成	自己課題に沿った指導案を作成する
6	部分実習指導案作成	自己課題に沿った指導案を作成する
7	実習直前指導	自己課題の準備と確認 プライバシーの保護と守秘義務について
8	保育実習振り返り	経験を報告し合い、今後の自己課題を明確化する

9	部分実習指導案作成	自己課題に沿った指導案を作成する
10	部分実習指導案作成	自己課題に沿った指導案を作成する
11	実習直前指導	自己課題の準備と確認 プライバシーの保護と守秘義務について
12	保育実習振り返り	経験を報告し合い、今後の自己課題を明確化する
13	保育士の専門性を深める①	保育士の専門性（子どもとの関わり、保育技術などについて）
14	保育士の専門性を深める②	保育士の専門性(保育内容、保育環境などについて)
15	見通しを持った保育の必要性①	月案から週案を立案する
16	見通しを持った保育の必要性②	月案から週案を立案する
17	保育実践力を培う①	就職後、実習生を受け入れることを想定し、他者の日誌から書き方を添削する。
18	保育実践力を培う②	就職後、実習生を受け入れることを想定し、他者の日誌から書き方を添削する。
19	保育実践力を培う③	就職後、実習生を受け入れることを想定し、他者の指導案から書き方を添削する。
20	保育実践力を培う④	就職後、実習生を受け入れることを想定し、他者の指導案から書き方を添削する。
21	連絡帳の書き方①	連絡帳の役割を知る 連絡帳を書くときに心掛けたいこと/思いが伝わる文章テクニック/NGポイント
22	連絡帳の書き方②	事例をもとに書く
23	要録について理解を深める①	要録の目的・書き方について学ぶ
24	要録について理解を深める②	要録の目的・書き方について学ぶ
25	就職後を見据えた取り組み①	今までの取り組みを振り返り、現場に必要な実践力を培う
26	就職後を見据えた取り組み②	今までの取り組みを振り返り、現場に必要な実践力を培う
27	就職後を見据えた取り組み③	今までの取り組みを振り返り、現場に必要な実践力を培う
28	就職後を見据えた取り組み④	今までの取り組みを振り返り、現場に必要な実践力を培う
29	保育者としての職業倫理	保育者としての資質
30	まとめ	①年間の学びのまとめ

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	実習	科目名	保育実習Ⅰ（保育所）		
必修選択	選択	（学則表記）	保育実習Ⅰ（保育所）		
開講				単位数	時間数
年次	3年	学科	こども総合学科	2	90
使用教材	なし			出版社	なし

科目の基礎情報②	
授業のねらい	乳幼児への理解を深めるとともに、保育所の機能と保育士の職務について学ぶために、保育所の生活に参加する。
到達目標	①保育所、児童福祉施設等の役割や機能を具体的に理解する。 ②観察や子どもとの関わりを通して子どもへの理解を深める。 ③既習の教科目の内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者への支援について総合的に理解する。 ④保育の計画・観察・記録及び自己評価等について具体的に理解する。 ⑤保育士の業務内容や職業倫理について具体的に理解する。
評価基準	実習評価40　日誌・指導案60　を基本的配分とした上で、提出物・巡回指導を総合的に評価する。
認定条件	実習規定に定める必要時間数以上の出席をしている者。 成績評価が３以上の者。 実習指導Ⅲ・保育実習Ⅱ（又は保育実習Ⅲ）の単位を取得している者。
関連資格	
関連科目	実習指導Ⅲ・保育実習Ⅱ・保育実習Ⅲ
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。
担当教員	田中　友梨　他１名
実務経験	○
実務内容	幼稚園にて幼稚園教諭として勤務（１０年）

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	実習	科目名	保育実習Ⅱ		
必修選択	選択	（学則表記）	保育実習Ⅱ		
開講				単位数	時間数
年次	3年	学科	こども総合学科	2	90
使用教材	なし		出版社	なし	

科目の基礎情報②	
授業のねらい	保育所での保育を実践し、保育士としての必要な資質・能力・技術を習得する。また、家庭と地域の生活実態にふれて、子ども家庭福祉ニーズに対する理解力、判断力を養うとともに、子育てを支援するために必要とされる能力を養う。
到達目標	①保育所の役割や機能について、具体的な実践を通して理解を深める。 ②子どもの観察や関わりの視点を明確にすることを通して、保育の理解を深める。 ③既習の教科目や保育実習Ⅰの経験を踏まえ、子どもの保育及び子育て支援について相互的に理解する。 ④保育の計画・実践・観察・記録及び自己評価等について、実際に取り組み、理解を深める。 ⑤保育士の業務内容や職業倫理について、具体的な実践に結びつけて理解する。 ⑥実習における自己の課題を明確化する。
評価基準	実習評価40　日誌・指導案60　を基本的配分とした上で、提出物・巡回指導を総合的に評価する。
認定条件	出席が90単位時間以上ある者。 成績評価が３以上の者。 実習指導Ⅲ・保育実習Ⅰ（保育所）の単位を取得している者。
関連資格	
関連科目	実習指導Ⅲ
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。
担当教員	尾崎　宏太　他１名
実務経験	
実務内容	

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	実習	科目名	保育実習Ⅲ		
必修選択	選択	（学則表記）	保育実習Ⅲ		
開講				単位数	時間数
年次	3年	学科	こども総合学科	2	90
使用教材	なし			出版社	なし

科目の基礎情報②	
授業のねらい	児童福祉施設での保育を実践し、保育士としての必要な資質・能力・技術を習得する。また、家庭と地域の生活実態にふれて、子ども家庭福祉、社会的養護、障害児支援に対する理解力、判断力を養うとともに、子育て支援・保護者支援するために必要とされる能力を養う。
到達目標	①既習の教科目や保育実習の経験を踏まえ、児童福祉施設等（保育所以外）の役割や機能について実践を通して、理解する。 ②家庭と地域の生活実態にふれて、子ども家庭福祉、社会的養護、障害児支援に対する理解をもとに、保護者支援、家庭支援のための知識、技術、判断力を習得する。 ③保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結び付けて理解する。 ④実習における自己の課題を理解する。
評価基準	実習評価40　日誌・指導案60　を基本的配分とした上で、提出物・巡回指導を総合的に評価する。
認定条件	出席が90単位時間以上ある者。 成績評価が３以上の者。 実習指導Ⅲ・保育実習Ⅰ（保育所）の単位を取得している者。
関連資格	
関連科目	実習指導Ⅲ
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。
担当教員	尾崎　宏太　他１名
実務経験	
実務内容	

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	演習	科目名	心理実践Ⅰ／子育て心理		
必修選択	選択必修	（学則表記）	心理実践Ⅰ		
開講				単位数	時間数
年次	3年	学科	こども総合学科	2	60
使用教材	子育ての発達心理学		出版社	同文書院	

科目の基礎情報②	
授業のねらい	発達段階ごとの子どもの成長の主な特徴について発達心理学の知見を踏まえ理解するとともに、各発達段階において生じる子ども及び保護者の課題に対する対応について事例を通して学ぶ。
到達目標	1.心理学的観点から、発達についての知識を習得する。 2.病児や躓き等、様々な子どもの発達特性や、その保護者の心理状態について知識を習得する。 3.家庭や福祉医療施設等における子育ての背景を理解し、保護者への適切な関わりについての知識・技術を習得する。
評価基準	授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果(70%)および授業態度と参加の積極性(30%)を踏まえ、総合的な観点で評価する。
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者。成績評価が3以上の者。
関連資格	
関連科目	心理実践Ⅱ　心理実践Ⅲ　心理実践Ⅳ
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。
担当教員	池辺　さやか　　実務経験　○
実務内容	小中高・看護学校のスクールカウンセラー、乳幼児健診、小児科、NPO法人でのカウンセラー等

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	ガイダインス	授業の進め方について　　子どもはどうやって育つのか
2	乳幼児と養育者	知性の身体化と養育者の役割
3	保育と発達　①	保育の５領域と発達理論の関係　①
4	保育と発達　②	保育の５領域と発達理論の関係　②
5	様々な発達理論　①	乳幼児期と愛着　①（愛着の形成と展開）
6	様々な発達理論　②	乳幼児期と愛着　②（愛着形成を阻害するものとは）
7	様々な発達理論　③	乳幼児期と保幼小接続
8	様々な発達理論　④	児童期以降の発達理論　①

9	様々な発達理論　⑤	児童期以降の発達理論　②
10	様々な発達理論　⑥	児童期以降の発達理論　③
11	様々な発達理論　⑦	児童期以降の発達理論　④
12	様々な発達理論　⑧	児童期以降の発達理論　⑤
13	総まとめ　①	振り返り　解説
14	情緒の発達　①	情緒・感情とは
15	情緒の発達　②	他者感情の理解と向社会的行動の発達
16	認知の発達　①	認知の発達　①
17	認知の発達　②	認知の発達　②
18	認知の発達　③	認知の発達　③
19	子どもの遊びの発達　①	発達と遊びの関係性　①
20	子どもの遊びの発達　②	発達と遊びの関係性　②
21	子どもの遊びの発達　③	発達と遊びの関係性　③
22	子どもの遊びの発達　④	発達と遊びの関係性　④
23	発達の躓きと養育者・施設の役割　①	発達を妨げる疾病等の理解　①
24	発達の躓きと養育者・施設の役割　②	発達を妨げる疾病等の理解　①
25	発達の躓きと養育者・施設の役割　③	各障害の特徴と対処例　①
26	発達の躓きと養育者・施設の役割　④	各障害の特徴と対処例　②
27	発達の躓きと養育者・施設の役割　⑤	福祉施設が目指す子どもの発達
28	総まとめ　②	振り返り　解説
29	子育て支援について　①	子育て支援の必要と手法
30	子育て支援について　②	子どもの観察と研究法

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	演習	科目名	心理実践Ⅱ／子育て家庭とストレスケア		
必修選択	選択必修	（学則表記）	心理実践Ⅱ		
開講				単位数	時間数
年次	3年	学科	こども総合学科	2	60
使用教材	ストレスマネジメント入門 保育者のためのこども虐待対応の基本		出版社	金剛出版 ひとなる書房	

科目の基礎情報②	
授業のねらい	虐待によって受ける心身への深刻な影響や死亡する子どもが増加する現代社会において、日常的に子どもと関わる専門職に求められる知識や具体的な対応ついて理解していく。 児童虐待の現状や要因、対応の方法、子どもや保護者の心理などについて、最新の動向を踏まえ
到達目標	1.保育・教育実践にかかわる心理学的知識を習得する。 2.発達障害やその他の乳幼児のための教育評価・支援方法を現代社会の問題に沿って習得する。 3.虐待が発生する一要因としてのストレスについて学び、対処技術であるストレスマネジメントを習得する。
評価基準	授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果(70%)および授業態度と参加の積極性(30%)を踏まえ、総合的な観点で評価する。
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者。成績評価が3以上の者。
関連資格	
関連科目	心理実践Ⅰ　心理実践Ⅲ　心理実践Ⅳ
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。
担当教員	多田　泰裕
実務経験	○
実務内容	小学校・中学校・高校のスクールカウンセラー、小児科のカウンセラー、ADHDの子どもへの包括的治療プログラム（くるめSTP）の実施、発達障がい児・者への行動療法（応用行動分析）・集団療法、保護者へのペアレント・トレーニングなどの経験あり

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	ガイダンス	授業の進め方について 保護者・子どもに起こるストレスについて学ぶ意義
2	保護者が抱えるストレス　①	ストレスとは
3	保護者が抱えるストレス　②	子育てにおける不安　　子育てで怒る保護者の気持ち
4	児童虐待とは　①	虐待とは　　何が虐待を招くのか　　児童虐待に関わる法令
5	児童虐待とは　②	様々な虐待事件について
6	児童虐待とは　③	コモンセンスペアレンティングの導入
7	子どもへの様々な影響　①	虐待による子どもへの影響　①
8	子どもへの様々な影響　②	虐待による子どもへの影響　②

9	子どもへの様々影響　③	虐待による子どもへの影響　③
10	環境刺激に対するヒトの行動様式	保護者の養育態度とタイプ行動A
11	ストレスに強い人格　①	保護者が子どもに望むこと
12	ストレスに強い人格　②	保護者が自己効力感を得る支援
13	総まとめ　①	振り返り・解説
14	園における対応と流れ　①	保護者・子どもへの変化の気づき
15	園における対応と流れ　②	児童虐待への対応
16	園における対応と流れ　③	保護者の悩みを受容する意味
17	社会的興味と外向性　①	社会的興味　　内向性・外向性
18	社会的興味と外向性　②	保護者が他者と関わる意味　①
19	社会的興味と外向性　③	保護者が他者と関わる意味　②
20	楽観主義と完璧主義　①	楽観主義と完璧主義　①
21	楽観主義と完璧主義　②	楽観主義と完璧主義　②
22	イメージリラックス・トレーニング	子育てとリラクゼーション
23	問題解決法とタイムマネジメント	保護者の日常と時間的余裕へのアプローチ
24	非合理な考え方　①	非合理な考え方の理論と要因　①
25	非合理な考え方　②	非合理な考え方の理論と要因　②
26	様々なケースへのアプローチ①	多様な虐待ケースにおける対応　①
27	様々なケースへのアプローチ②	多様な虐待ケースにおける対応　②
28	総まとめ　②	振り返り・解説
29	様々なケースへのアプローチ③	多様な虐待ケースにおける対応　③
30	様々なケースへのアプローチ④	様々な虐待ケースにおける対応　④

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	演習	科目名	心理実践Ⅲ／カウンセリング		
必修選択	選択必修	（学則表記）	心理実践Ⅲ		
開講				単位数	時間数
年次	3年	学科	こども総合学科	2	60
使用教材	子育て支援カウンセリング　幼稚園・保育所で行う保護者の心のサポート		出版社	図書文化社	

科目の基礎情報②	
授業のねらい	カウンセリングの諸理論を通してカウンセリング場面の基本的姿勢や技法を体験学習を通じて学ぶ。また、自身や他者のこころについて理解を深め、人との関わりについて学ぶ。
到達目標	・カウンセリングの理論と実施について習得する。 ・教育、臨床現場で起こりえる問題や状況に応じた援助に役立つ能力を習得する。 ・傾聴、他者理解を体験しながら身につける。
評価基準	授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果(70%)および授業態度と参加の積極性(30%)を踏まえ、総合的な観点で評価する。
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者。成績評価が3以上の者。
関連資格	
関連科目	心理実践Ⅰ　心理実践Ⅱ　　心理実践Ⅳ
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。
担当教員	鹿口　尚子
実務経験	○
実務内容	療育センターで児童指導員として勤務、公立小学校にてスクールカウンセラーとして勤務

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	ガイダンス よりよい子育て支援のために	授業の進め方について　　保育者の心を支えるために必要なこと
2	自分を知る・他者を知る	自己開示とは　　物事の感じ方を理解する
3	子育て支援に生かすカウンセリングの理論と技法　①	ロジャーズの来談者中心療法
4	子育て支援に生かすカウンセリングの理論と技法　②	カウンセリングに必要なコミュニケーション　①
5	子育て支援に生かすカウンセリングの理論と技法　③	カウンセリングに必要なコミュニケーション　②
6	子育て支援に生かすカウンセリングの理論と技法　④	ロールプレイ体験　①
7	子育て支援に生かすカウンセリングの理論と技法　⑤	共感と純粋性
8	子育て支援に生かすカウンセリングの理論と技法　⑥	沈黙が訪れる場面とその時の対応　　質問の技法

9	子育て支援に生かすカウンセリングの理論と技法　⑦	ロールプレイ体験　②
10	子育て支援に生かすカウンセリングの理論と技法　⑧	繰り返しの技法　　会話を要約をする意味
11	子育て支援に生かすカウンセリングの理論と技法　⑨	クライアントの支持をする意味
12	子育て支援に生かすカウンセリングの理論と技法　⑩	ロールプレイ体験　③
13	総まとめ　①	振り返り・解説
14	子育て支援に生かす様々な心理学理論　①	フロイトの精神分析論
15	子育て支援に生かす様々な心理学理論　②	アドラーの個人心理学
16	子育て支援に生かす様々な心理学理論　③	ユング心理学
17	子育て支援に生かす様々な心理学理論　④	交流分析
18	子育て支援に生かす様々な心理学理論　⑤	行動心理学
19	子育て支援に生かす様々な心理学理論　⑥	認知心理学
20	子育て支援に生かす様々な心理学理論　⑦	ブリーフセラピー
21	養育困難を抱える保護者の理解とサポート	養育のリスク要因　　虐待が疑われる家庭
22	障害のある子どもをもつ保護者の理解とサポート	保護者との信頼関係　　多くみられる障害について
23	精神疾患の疑いのある保護者の理解とサポート	サポートがうまくいかない時の一要因　　多くみられる疾患について
24	子育て支援に生かす様々なアセスメント技法　①	アセスメント技法　①
25	子育て支援に生かす様々なアセスメント技法　②	アセスメント技法　②
26	その他の心理療法　①	様々な心理療法　①
27	その他の心理療法　②	様々な心理療法　②
28	総まとめ　②	振り返り・解説
29	親としての成長を支える	親になるということとへの理解
30	カウンセリング技法等の振り返り	【事例と通して】ロールプレイ

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	演習	科目名	心理実践Ⅳ/モチベーション・マネジメント		
必修選択	選択必修	（学則表記）	心理実践Ⅳ		
開講				単位数	時間数
年次	3年	学科	こども総合学科	2	60
使用教材	・モチベーション・インストラクター資格テキスト ・人生が大きく変わる アドラー心理学入門		出版社	かんき出版	

科目の基礎情報②	
授業のねらい	目標達成への行動を喚起する、また達成するまで行動を持続するための理論理解は、保育者として必要な力である。本科目では身近な生活場面を元にモチベーション理論を実践的に学び、理解していく。
到達目標	目標達成への行動を喚起する、また達成するまで行動を持続するための理論理解は、保育者として必要な力である。本科目では身近な生活場面を元にモチベーション理論を実践的に学び、理解していく。
評価基準	授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果（70%）および授業態度と参加の積極性（30%）を踏まえ、総合的な観点で評価する。
認定条件	出席が総時間数の２/３以上ある者。 成績評価が３以上の者。
関連資格	モチベーション・インストラクター資格
関連科目	心理実践Ⅰ　心理実践Ⅱ　心理実践Ⅲ
備考	原則、この科目は対面授業方式にて実施する。
担当教員	本田　優奈
実務経験	
実務内容	

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	モチベーションとは	モチベーション・インストラクター資格の趣旨理解 ①モチベーションとは何か　②なぜ重要か　③高める必要があるのか
2	期待理論①	モチベーションの３つの要素とは
3	期待理論②	やりたい感を高める３つのポイント
4	期待理論③（やらなきゃ感）	やらなきゃ感を高める４つのポイント
5	期待理論④（やれそう感）	やれそう感を高める３つのポイント
6	復習	期待理論
7	選択理論	選択理論
8	構造転換（スイッチ&フォーカス）	構造転換（スイッチ&フォーカス）
9	影響力の源泉	５つの影響力の源泉

10	ＰＭ理論	ＰＭ理論・２種類のリーダーシップ
11	テスト+復習	選択理論・構造展開を使いこなす
12	外発的/内発的モチベーション	モチベーションのタイプについて
13	欲求階層説（マズロー）	状態による欲求の違い
14	集団凝集性	集団・組織に魅力を感じる３つのポイント
15	全体まとめ	全体まとめ・インストラクター資格について
16	アドラー心理学とフロイト心理学	アドラー心理学とフロイト心理学の違い
17	アドラー心理学と５つの理論　①	アドラー心理学とは　①
18	アドラー心理学と５つの理論　②	アドラー心理学とは　②
19	自分との付き合い方　①	感情との付き合い方
20	自分との付き合い方　②	「怒り」との付き合い方
21	自分との付き合い方　③	ライフタクス
22	人間関係　①	人間関係とは
23	人間関係　②	人間関係を作る理論と技法
24	仕事・リーダーとしての心理学　①	集団心理　　リーダーシップ論
25	仕事・リーダーとしての心理学　②	アサーショントレーニング
26	仕事・リーダーとしての心理学　③	コーチング
27	親子・家族関係の心理学　①	家族理論
28	総まとめ　②	振り返り　確認
29	親子・家族関係の心理学　②	望ましい親子関係とは
30	人生を豊かにする心理学	失敗から立ち直るということ

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	演習	科目名	スポーツ実践Ⅰ(幼児体育)		
必修選択	選択必修	(学則表記)	スポーツ実践Ⅰ		
開講				単位数	時間数
年次	3年	学科	こども総合学科	2	60
使用教材	幼児期運動指針ガイドブック 毎日、楽しく体を動かすために		出版社	サンライフ企画	

科目の基礎情報②			
授業のねらい	幼児体育を指導する上で幼児期の発達と特性を理解し、自身の実技能力を高める。		
到達目標	各種目の基本的な動き、表現力や技術の向上を目標にし、指導方法や補助法も習得する。		
評価基準	授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果(70%)および授業態度と参加の積極性(30%)を踏まえ、 総合的な観点で評価する。		
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者。成績評価が3以上の者。		
関連資格	こども運動指導者検定2級・1級		
関連科目	スポーツ実践Ⅱ・スポーツ実践Ⅲ・スポーツ実践Ⅳ		
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。		
担当教員	安部　慶彦	実務経験	○
実務内容	幼稚園にて体育講師として勤務(１５年)		

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	体を思い切り動かし 幼児体育の特性を理解する	マット・鉄棒・跳び箱・ボール・縄運動の特性を理解し実際に動いてみる
2	基本運動を実践し、 動くことの楽しさを実践する	スポーツの基本となる動きを組み合わせて、動くことの楽しさを実践する
3	個人レベル確認：マット種目①	幼児体育指導におけるマット運動基本を身につける
4	マット運動の補助①	マット運動の基本的な補助法を理解し、他者へ伝える
5	個人レベル確認：マット種目②	幼児体育指導におけるマット運動の基本を身につける
6	マット運動の補助②	マット運動の基本的な補助法を理解し、他者へ伝える
7	個人レベル確認：跳び箱①	幼児体育における跳び箱運動の基本を身につける
8	跳び箱運動の補助①	跳び箱運動の基本的な補助法を理解し、他者へ伝える　(開脚跳び)
9	個人レベル確認：跳び箱②	幼児体育における跳び箱運動の基本を身につける

10	跳び箱運動の補助②	跳び箱運動の基本的な補助法を理解し、他者へ伝える （台上前転）
11	個人レベル確認：鉄棒	幼児体育における鉄棒運動の基本を身につける
12	鉄棒の補助	鉄棒の基本的な補助法を理解し、他者に伝える
13	個人レベル確認：縄跳び運動	幼児体育における縄跳び運動の基本を身につける
14	マット実技	マット運動実技を行い習熟度を測る
15	前期振り返り	前期学んだ内容をまとめて、レポートにする
16	前期の振り返り	前期まとめたレポートを発表する
17	指導法を学ぶ①	幼児体育における系統的指導法を学ぶ
18	指導法を学ぶ②	幼児体育における段階的指導法を学ぶ
19	マット運動：グループワーク①	マットを用いて系統的、段階的指導法をグループで学ぶ
20	マット運動：グループワーク②	グループでマットを用いて系統的、段階的指導法を考案し、発展させる
21	跳び箱運動：グループワーク①	跳び箱を用いて系統的、段階的指導法をグループで学ぶ
22	跳び箱運動：グループワーク②	グループで跳び箱を用いて系統的、段階的指導法を考案し、発展させる
23	縄跳び運動：グループワーク①	縄を用いて系統的、段階的指導法をグループで学ぶ
24	縄跳び運動：グループワーク②	グループで縄を用いて系統的、段階的指導法を考案し、発展させる
25	ボール運動：グループワーク①	ボールを用いて系統的、段階的指導法をグループで学ぶ
26	ボール運動：グループワーク②	グループでボールを用いて系統的、段階的指導法を考案し、発展させる
27	サーキッド運動①	後期に学んだ指導法を生かし、グループで種具を用いてサーキッド運動を考案する
28	サーキッド運動①	グループで種具を用いてサーキッド運動を子供役、生徒役を決め実践する
29	後期振り返り	後期に学んだ内容をテーマを決めてレポートにする
30	後期振り返り	まとめ

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	演習	科目名	スポーツ実践Ⅱ(幼児レクリエーション)		
必修選択	選択必修	(学則表記)	スポーツ実践Ⅱ		
開講				単位数	時間数
年次	3年	学科	こども総合学科	2	60
使用教材	なし		出版社	なし	

科目の基礎情報②	
授業のねらい	子どもの身体的特徴や運動機能を理解し、運動遊びを学び、実践する 。
到達目標	自分たちでレクリエーションを考案し、企画、指導できるようにする。
評価基準	授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果(70%)および授業態度と参加の積極性(30%)を踏まえ、 総合的な観点で評価する。
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者。成績評価が3以上の者。
関連資格	
関連科目	スポーツ実践Ⅰ・スポーツ実践Ⅲ・スポーツ実践Ⅳ
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。
担当教員	榎原　拓也
実務経験	○
実務内容	幼稚園にて体育講師として勤務(２年)

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	運動遊びと幼児のレクリエーション	レクリエーションや遊びについて理解する
2	伝承遊び①	昔からある遊びについて理解し、実践してみる
3	伝承遊び②	昔からある遊びについて理解し、グループで実践してみる
4	手遊びを理解する	子どもの発達に合わせた手遊びを学び、理解する
5	手遊びを理解し、実践する	子どもの発達に合わせた手遊びをグループごとに発表する
6	ことばの機能を育てるレク①	音や声を使い身体を表現する指導法を実践する
7	ことばの機能を育てるレク②	音や声を使い身体を表現する指導法をグループに分かれて実践する
8	社会性を育てるレク①	子どもたちの発達段階に合わせた運動遊び、レクリエーションを学ぶ
9	社会性を育てるレク②	子どもたちの発達段階に合わせた運動遊び、レクリエーションを学ぶ

10	ごっこ遊び①	子どもたちの発達段階に合わせたごっこ遊びを学ぶ
11	ごっこ遊び②	子どもたちの発達段階に合わせたごっこ遊びを学び、グループごとに実践、発表する
12	0歳からできる運動遊び	年齢別の動きを理解し、乳幼児から親子で楽しめる運動遊びを実践する
13	発展性のある運動遊び①	昔遊びや様々な遊びの基本的ルールを発展的に考える
14	発展性のある運動遊び②	グループごとにテーマを与え先生役、子供役に別れてニュースポーツを行う
15	前期の振り返り	前期で学んだ内容をレポートにまとめる
16	前期の振り返り	前期で学んだ内容をまとめたレポートを発表する
17	身体を使ったレクリエーション①(用具・手具)	年齢別にレクリエーションを理解し、身近な物を使い実際に動きながら理解を深める
18	身体を使ったレクリエーション②(座った姿勢・床、椅子)	年齢別にレクリエーションを理解し、座った姿勢で出来るレクを考え、実際に動きながら理解を深める
19	身体を使ったレクリエーション③(グループレク)	年齢別にレクリエーションを理解し、大人数で出来るレクを実際に動きながら理解を深める
20	バルーン遊び①	バルーンを使い楽しく体を動かす
21	バルーン遊び②	バルーン遊びを理解し、音楽に合わせて動く
22	バルーン遊び③	グループに分かれてバルーンの動きを考え、他者に指導する
23	ボールを使ったレクリエーション	発達段階に合わせたボールレクリエーションを実践する。
24	新聞紙遊び	新聞紙を使い年齢に合わせたレクリエーション遊びを実践する
25	鬼ごっこ①	年齢別の動きを理解し、室内、屋外で出来る鬼ごっこを学び、実践する
26	鬼ごっこ②	年齢別の動きを理解し、室内、屋外で　出来る鬼ごっこを学び、理解した上で先生役、子供役に分かれて行う
27	室内レクリエーション	室内で出来るレクを学び、グループに分かれて考案し、実践する
28	屋外レクリエーション	屋外で出来るレクを学び、グループに分かれて考案し、実践する
29	後期振り返り	後期で学んだ内容をレポートにまとめる
30	後期振り返り	まとめ

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	演習	科目名	スポーツ実践Ⅲ(保育行事・イベント運営)		
必修選択	選択必修	(学則表記)	スポーツ実践Ⅲ		
開講				単位数	時間数
年次	3年	学科	こども総合学科	2	60
使用教材	なし		出版社	なし	

科目の基礎情報②	
授業のねらい	幼稚園、保育園の保育行事の中身を知り、子どもたちに何を伝えるかを学ぶ。保育者として各行事の知識を得る。
到達目標	行事の中身をしっかりと理解し、保育者として指導案をしっかり立てられるようになる。
評価基準	授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果(70%)および授業態度と参加の積極性(30%)を踏まえ、 総合的な観点で評価する。
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者。成績評価が3以上の者。
関連資格	
関連科目	スポーツ実践Ⅰ・スポーツ実践Ⅱ・スポーツ実践Ⅳ
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。
担当教員	村上　光平
実務経験	
実務内容	

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	保育行事を知る(４月～９月)	幼稚園、保育園での保育行事の4月～9月の種類を知る
2	入園式①	入園式の目的や意義を理解する。入園式にちなんだリズム遊びやリズム体操を学ぶ
3	入園式②	グループで入園式の指導案を作成する
4	入園式③	各グループで入園式の模擬保育を行う
5	遠足や参観①	遠足や保育参観の目的や意義を理解する
6	遠足や参観②	遠足や保育参観で出来る、運動やグループレクを学ぶ
7	遠足や参観③	各グループで遠足、保育参観の模擬保育を行う
8	プール遊び①	プール遊びの目的や意義を理解する
9	プール遊び②	プール遊びでの年齢別の指導を理解する

10	プール遊び③	プールの衛生管理、安全性について学びレポートにまとめる
11	泊まり保育やキャンプ活動①	お泊まり保育での活動の大切さや、キャンプ活動ならではの遊び、レクを学ぶ
12	泊まり保育やキャンプ活動②	グループでお泊まり保育、キャンプ活動の行程表を作成する
13	泊まり保育やキャンプ活動③	グループでお泊まり保育、キャンプ活動の行程表を発表する
14	怪我や応急処置	怪我の種類や応急処置について学ぶ
15	前期の振り返り	前期学んだ内容をまとめて、レポートにする
16	前期の振り返り	前期学んだ内容をまとめて、発表する
17	保育行事を知る(10月～3月)	幼稚園、保育園での保育行事の10月～3月の種類を知る
18	運動会①	年齢に合わせた運動会プログラムを考案し、実践する(0歳児～2歳児)
19	運動会②	年齢に合わせた運動会プログラムを考案し、実践する(3歳児)
20	運動会③	年齢に合わせた運動会プログラムを考案し、実践する(4歳児)
21	運動会④	年齢に合わせた運動会プログラムを考案し、実践する(5歳児)
22	運動会の環境設定	運動会に関する環境設定を学ぶ
23	体力測定①	幼児で行う、体力測定の種類、測定方法を学ぶ
24	体力測定②	グループで体力測定を実践する
25	季節の行事①	グループに分かれて餅つきやクリスマス会・ハロウィンなどの指導案を考える
26	季節の行事②	グループに分かれて餅つきやクリスマス会・ハロウィンなどの模擬保育を行う
27	卒園式①	卒園式の目的や意義を理解する
28	卒園式②	グループに分かれて卒園式の指導案を考える
29	後期の振り返り	後期で学んだ事をレポートにまとめる
30	まとめ	後期で学んだ事をレポートにまとめたものを発表する

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	演習	科目名	スポーツ実践Ⅳ(キッズダンス)		
必修選択	選択必修	(学則表記)	スポーツ実践Ⅳ		
開講				単位数	時間数
年次	3年	学科	こども総合学科	2	60
使用教材	なし		出版社	なし	

科目の基礎情報②	
授業のねらい	①子どもの身体的特徴や運動機能の向上、社交性に繋がることを理解する。 ②ダンスを学び身につける。
到達目標	①ダンスを通じ子どもが運動機能の向上やリズム感を養うこと、社交性に繋がるを理解し指導できる。 ②ダンスを身につけ子どもたちのお手本を示せる。☒ ③自らが振付を考案、企画、指導できる。
評価基準	授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果(70%)および授業態度と参加の積極性(30%)を踏まえ、 総合的な観点で評価する。
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者。成績評価が3以上の者。
関連資格	
関連科目	スポーツ実践Ⅰ・スポーツ実践Ⅱ・スポーツ実践Ⅲ
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。
担当教員	武石　晃	実務経験	○
実務内容	ダンス講師(１０年)、タレントやアーティスト育成としてダンス講師や振付師(５年)、殺陣講師(３年)

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	音楽を表現する方法や、身体の動かし方を学び、ダンスの楽しさを理解する
2	アイソレーション①	アイソレーションを理解し、実践する
3	アイソレーション②	アイソレーションで様々な部位を音に合わせ動かすことを学び、実践する
4	リズムトレーニング①	音楽に乗り動く為のリズムを学び、理解する
5	リズムトレーニング②	音楽に乗り動く為のリズムを学び、実践する
6	ダンスステップ①	さまざまなダンスステップの名前や動きを学び、実践する
7	ダンスベーシックとステップ①	グループや全体で学んだステップやベーシックをローテーションして実践する
8	ダンスステップ②	さまざまなダンスステップの名前や動きを学び、実践する
9	ダンスベーシックとステップ②	グループや全体で学んだステップやベーシックをローテーションして実践する

10	ダンスルーティーン①	ベーシックやステップを組み合わせて踊る事を学び、実践する
11	ダンスルーティーン②	ベーシックやステップを組み合わせて踊る事を学び、グループごとに実践、発表する
12	振付をしろう①	ステップだけでなく、遊びの中の動きやさまざまな動きが使えることを理解する
13	振付をしろう②	子どもが真似したくなる、楽しく笑顔になる動きを理解し、実践する
14	振付をしてみよう	さまざまな個性を出して振付を実践する
15	前期まとめ	前期まとめ（グループに分かれ、振付を発表する）
16	制限を使った振付①（手振）	手を使った振付を学び、考案してみる
17	制限を使った振付②（座った姿勢）	座った姿勢での振付を学び、考案して実践する
18	振付を踊ってみよう①	さまざまな振付を学び、実践する
19	振付を踊ってみよう②	課題を覚え理解し、グループごとに実践、発表する
20	ダンスベーシックとステップ③	グループや全体で学んだステップやベーシックをローテーションして実践する☒
21	ダンスルーティーン③	ベーシックやステップを組み合わせて踊る事を学び、グループごとに実践、発表する
22	身体の動かし方、伝え方	子どもたちの発育段階に合わせた動かし方、伝え方を理解する
23	指導法①	グループごとに、子どもたちの発育段階に合わせたケースメソッドで実践する
24	指導法②	ジグソー形式に体感、考案して実践する
25	ペアや複数振付	ペアや複数でのコンビネーションを学び、実践する
26	フォーメーション①	グループ構成を学び、理解する
27	フォーメーション②	グループごとにフォーメーション構成含めて、振付を考案、発表する
28	後期まとめ①	後期まとめ（グループに分かれ、振付考案）
29	後期まとめ②	後期まとめ（グループに分かれ、発表会）
30	年間振り返り	後期・年間まとめ

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	演習	科目名	病児実践Ⅰ／こどもの医学Ⅰ		
必修選択	選択必修	（学則表記）	病児実践Ⅰ		
開講				単位数	時間数
年次	3年	学科	こども総合学科	2	60
使用教材	子どもの保健検定2級・3級　公式テキスト		出版社	日本能率マネジメントセンター	

科目の基礎情報②	
授業のねらい	保育士・幼稚園教諭となるために正しい知識を修得し、適切な対応力を身に付ける。
到達目標	子どもの保健検定3級　取得
評価基準	授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果(70%)および授業態度と参加の積極性(30%)を踏まえ、総合的な観点で評価する。
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者。成績評価が3以上の者。
関連資格	子どもの保健検定3級
関連科目	病児実践Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。
担当教員	眞榮田　俊
実務経験	○
実務内容	幼稚園にて幼稚園教諭として勤務（１４年）

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション・復習	授業のねらい、検定の概要、子どもの保健の複州
2	第1編　第1章　病気のサインの見つけ方	日常の観察と子どもの体温変化について
3	第1編　第1章　病気のサインの見つけ方	子どもの症状を見るポイント①
4	第1編　第1章　病気のサインの見つけ方	子どもの症状を見るポイント②
5	第１編　第２章　からだの観察で気づく疾患	腹部・陰部の観察と疑われる疾患について
6	第１編　第２章　からだの観察で気づく疾患	頸部・頭部の観察を疑われる疾患について
7	第１編　第３章　子どもに見られる感染症と感染症の予防接種	主な感染症と病原体、感染症による登園・登校の禁止について
8	第１編　第３章　子どもに見られる感染症と感染症の予防接種	子どもに多く見られる感染症の特徴、感染症に対する予防接種について
9	第１編　第４章　各症状への対応	発熱時、発疹時の対応について

10	第１編　第4章　各症状への対応	嘔吐時、下痢時、腹痛時の対応について
11	第１編　第４章　各症状への対応	咳嗽時、けいれん時の対応について
12	第１編　第5章　子どもへの救急対応	救急対応の基本と死因の知識、乳幼児の誤飲・窒息について
13	第１編　第5章　子どもへの救急対応	救急の対応が必要となる場合について
14	第１編　第１章～第5章	検定に向けて対策を行う
15	第１編　第1章～第５章	総まとめ
16	第２編　第１章　子どもの保健	子どもの健康と保健の意義、数字で見る子どもの健康について
17	第2編　第１章　子どもの保健	子どもの発育と発達について
18	第2編　第１章　子どもの保健	子どもの体位測定と体格評価指数について
19	第2編　第１章　子どもの保健	子どもの体重・身長、目・耳の変化、骨・歯の変化について
20	第2編　第１章　子どもの保健	子どもの呼吸、循環の変化について
21	第2編　第１章　子どもの保健	子どもの反射について
22	第2編　第１章　子どもの保健	子どもの疾病と保健（呼吸器、循環器、消化器、神経、筋疾患）について
23	第2編　第１章　子どもの保健	子どもの疾病と保健（泌尿器、内分泌、血液、アレルギー、悪性腫瘍）について
24	第２編　第１章　子どもの保健	子どもの精神保健について
25	第2編　第１章　子どもの保健	保育環境の衛生管理について
26	第2編　第１章　子どもの保健	保育環境の安全管理について
27	第2編　第１章　子どもの保健	子どもの健康診査・健康診断について
28	第２編　第２章　子どもの食と栄養	乳児期の食と栄養について
29	第２編　第２章　子どもの食と栄養	離乳期、幼児期の食と栄養について
30	第2編　第1章～第２章	総まとめ

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	演習	科目名	病児実践Ⅱ／こどもの医学Ⅱ		
必修選択	選択必修	（学則表記）	病児実践Ⅱ		
開講				単位数	時間数
年次	3年	学科	こども総合学科	2	60
使用教材	こうすればうまくいく！医療的配慮が必要なこどもの保育		出版社	中央法規出版	

科目の基礎情報②	
授業のねらい	医療的ケアを受けている子どもや、慢性疾患のある子どもへの配慮や援助方法を身につける。
到達目標	病気や障害について、保育のなかで気をつけることや、保護者に確認しておくことは何かを考えられるようになる
評価基準	授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果(70%)および授業態度と参加の積極性(30%)を踏まえ、総合的な観点で評価する。
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者。成績評価が3以上の者。
関連資格	
関連科目	病児実践Ⅰ、病児実践Ⅲ、病児実践Ⅳ
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。
担当教員	常岡　和代
実務経験	
実務内容	

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	第1部　医療的な配慮の必要な子どもを受け入れるための基礎知識	保育者はどのような情報を把握すればよいのか 保育者は保護者や子どもの主治医とどのようにかかわればよいのか
2	第1部　医療的な配慮の必要な子どもを受け入れるための基礎知識	病気のある子どもと保護者の心理 医療的な配慮が必要な子どもに対して保育者ができること
3	第1部　医療的な配慮の必要な子どもを受け入れるための基礎知識	医療的ケアとは 薬の預かりについて
4	第2部　それぞれの病気の知識と保育のときの配慮　　アレルギー	1　アトピー性皮膚炎
5	第2部　それぞれの病気の知識と保育のときの配慮　　アレルギー	2　食物アレルギー
6	第2部　それぞれの病気の知識と保育のときの配慮　　アレルギー	アナフィラキシーとは
7	第2部　それぞれの病気の知識と保育のときの配慮　　アレルギー	3　花粉症
8	第2部　それぞれの病気の知識と保育のときの配慮　　アレルギー	4　ぜんそく その他のアレルギーと遊びのなかでの配慮
9	神経系の病気	5　てんかん 熱性けいれんとてんかんの関連

10	神経系の病気	脳性まひ
11	聴覚障害	7　難聴
12	視覚障害	8　盲
13	視覚障害	9　弱視、白内障、緑内障 10　斜視
14	腎臓の病気	11　腎臓の病気
15	ホルモンに関する病気	12　低身長 13　思春期早発症
16	ホルモンに関する病気	14　ターナー症候群
17	ホルモンに関する病気	15　糖尿病
18	心臓の病気	16　心臓の病気 友だちが入院することになったとき、クラスの子どもにどう伝えるか
19	血液の病気	17　突発性血小板減少性紫斑病（免疫性血小板減少症）
20	血液の病気	19　重度の貧血（鉄欠乏性貧血） 病棟でのこどもたちの生活
21	血液の病気	HIVに感染した子どもを受け入れることになったら
22	がん	20　白血病 在園児が入院することになったら…その子どもにどう対応するか
23	がん	21　脳腫瘍
24	がん	22　神経芽腫
25	その他の病気	23　口唇裂・口蓋裂 抑制帯（抑制筒）について
26	その他の病気	24　水頭症 25　二分脊椎症
27	その他の病気	26　レックリングハウゼン病 27　アルビノ（白皮症）
28	その他の病気	28　ウイリアムズ症候群 29　小さく生まれた子ども（低出生体重児）
29	その他の病気	30　ADHD（注意欠如多動症）
30	その他の病気	もしも、クラスメイトが亡くなってしまったときには

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	演習	科目名	病児実践Ⅲ／こども救急法		
必修選択	選択必修	（学則表記）	病児実践Ⅲ		
開講				単位数	時間数
年次	3年	学科	こども総合学科	2	60
使用教材	０～５歳児ケガと病気の予防・救急まるわかり安心ＢＯＯＫ 保育者が知っておきたい　第２版	出版社	ナツメ社		

科目の基礎情報②			
授業のねらい	子どもによくあるケガや病気の症状や特徴を学び、緊急時の対応を習得する		
到達目標	緊急時に対する的確な対応ができる		
評価基準	授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果(70%)および授業態度と参加の積極性(30%)を踏まえ、総合的な観点で評価する。		
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者。成績評価が3以上の者。		
関連資格			
関連科目	病児実践Ⅰ、病児実践Ⅱ、病児実践Ⅳ		
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。		
担当教員	常岡　和代	実務経験	
実務内容			

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	よくある子どもの体調変化	熱が出た、おう吐した、下痢をした
2	よくある子どもの体調変化	お腹を痛がる、せきが止まらない、頭を痛がる
3	よくある子どもの体調変化	けいれんしている、口やのどを痛がる
4	命にかかわる緊急時の対応	熱中症
5	命にかかわる緊急時の対応	緊急マニュアル、心肺蘇生法
6	命にかかわる緊急時の対応	おぼれた、誤飲した、やけどをした
7	命にかかわる緊急時の対応	頭を打った、骨折した、止血法、包帯の巻き方
8	命にかかわる緊急時の対応	包帯の巻き方（三角巾）、アナフィラキシー
9	第1章 園生活でよくある子どものけが	すり傷・切り傷、鼻血が出た

10	第1章 園生活でよくある子どものけが	口の中をけがした、打撲した、指を挟んだ・つめをけがした
11	第1章 園生活でよくある子どものけが	だっきゅうした・ねんざした、虫に刺された、目・鼻・耳に異物が入った
12	第1章 園生活でよくある子どものけが	かまれた、子ども同士のかみつき、かぶれた
13	第1章 園生活でよくある子どものけが	保育環境の安全対策
14	第1章 園生活でよくある子どものけが	園の災害対策、保護者連絡
15	第２章 園児がかかりやすい子どもの病気	毎日の健康観察、風邪症候群、咽頭炎、扁桃炎
16	第２章 園児がかかりやすい子どもの病気	気管支炎、ぜんそく様気管支炎、肺炎
17	第２章 園児がかかりやすい子どもの病気	急性中耳炎、滲出性中耳炎、外耳炎、副鼻腔炎
18	第２章 園児がかかりやすい子どもの病気	脳炎・脳症、髄膜炎、川崎病
19	第２章 園児がかかりやすい子どもの病気	脂ろう性湿疹、あせも、おむつかぶれ、カンジダ性皮膚炎
20	第２章 園児がかかりやすい子どもの病気	アレルギーについて知っておこう、アトピー性皮膚炎、食物アレルギー、気管支ぜんそく
21	第２章 園児がかかりやすい子どもの病気	アレルギー性鼻炎、アレルギー性結膜炎、花粉症、じんましん、アレルギーに対応するときのポイント
22	第3章 園で流行しやすい感染症	感染経路と感染対策、消毒液の使い方、学校感染症と予防接種、インフルエンザ
23	第3章 園で流行しやすい感染症	麻疹、風疹、百日ぜき、水痘
24	第3章 園で流行しやすい感染症	咽頭結膜熱、流行性角結膜炎、ＲＳウイルス感染症、クループ症候群
25	第3章 園で流行しやすい感染症	手足口病、伝染性紅斑、突発性発疹、ポツポツ（発しん）がある
26	第3章 園で流行しやすい感染症	伝染性軟属腫、伝染性膿痂疹、アタマジラミ
27	第3章 園で流行しやすい感染症	流行性耳下腺炎、溶連菌感染症、ヘルパンギーナ
28	第3章 園で流行しやすい感染症	腸管出血性大腸菌感染症、食中毒と予防法、感染性胃腸炎
29	第3章 園で流行しやすい感染症	感染症を防ぐ衛生管理
30	第3章 園で流行しやすい感染症	乳幼児突然死症候群（SIDS)の予防法、子どもを虐待から守るために

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	演習	科目名	病児実践Ⅳ／ベビーシッター論		
必修選択	選択必修	（学則表記）	病児実践Ⅳ		
開講				単位数	時間数
年次	3年	学科	こども総合学科	2	60
使用教材	家庭訪問保育の理論と実際 第３版		出版社	中央法規	

科目の基礎情報②	
授業のねらい	ベビーシッターなど居宅訪問型保育者となるために必要な知識と技術を身につける
到達目標	・居宅訪問型保育者の社会的背景、経緯、位置づけについて理解する。 ・居宅訪問型保育者の役割について理解する。 ・訪問保育を行ううえで必要となる健康管理や疾病の予防又は対応など基礎知識について理解し、行うことができる。 ・抱っこやオムツ交換、服の着脱など、子どもと接する際に必要となる基本技術を行うことができる。 ・居宅訪問型保育を利用する家庭のニーズを知り、環境整備、保育者としての基礎姿勢、保護者への対応など配慮事項について理解する。
評価基準	授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果(70%)および授業態度と参加の積極性(30%)を踏まえ、総合的な観点で評価する。
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者。成績評価が3以上の者。
関連資格	
関連科目	病児実践Ⅰ、病児実践Ⅱ、病児実践Ⅲ
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。
担当教員	藤瀬　のり子
実務経験	○
実務内容	保育園にて保育士として勤務(２０年)

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	家庭訪問保育とは	授業の流れ、到達目標の説明 家庭訪問保育の体系
2	居宅訪問型保育の概要①	居宅訪問型保育の社会的背景、経緯、歴史、概要
3	居宅訪問型保育の概要②	地域子ども子育て支援事業における居宅訪問型保育の展開
4	乳幼児の生活と遊び	子どもの発達と生活
5	乳幼児の発達と心理①	乳幼児の発達過程（言葉、他者、探索、移動）、保育者の役割
6	乳幼児の発達と心理②	乳幼児の発達過程（言葉、他者、探索、移動）、保育者の役割
7	乳幼児の発達と心理③ 振り返り	乳幼児の発達過程（言葉、他者、探索、移動）、保育者の役割 これまでを振り返りまとめる

8	乳幼児の食事と栄養①	乳児期（授乳・離乳の支援、離乳食の意味）、幼児期（幼児期の食事）
9	乳幼児の食事と栄養②	食物アレルギーなど、健康状態を考慮した食事、乳幼児期の食育
10	小児保健Ⅰ	乳幼児の健康観察のポイント、衛生管理・消毒について
11	小児保健Ⅱ①	子どもに多い症状や病気とその対応
12	小児保健Ⅱ②	事故予防と対応
13	小児保健Ⅱ③ 振り返り	心肺蘇生法 これまでを振り返りまとめる
14	実践演習①	お世話編（睡眠、抱っこ、おんぶ、おむつ替え、着替え、）
15	実践演習②	お世話編（睡眠、抱っこ、おんぶ、おむつ替え、着替え）
16	居宅訪問型保育の保育内容①	居宅訪問型保育の内容、特徴、配慮事項
17	居宅訪問型保育の保育内容②	保育の計画に基づき行う保育
18	居宅訪問型保育における環境整備	居宅訪問型保育に必要な環境の基本
19	居宅訪問型保育の運営	居宅訪問型保育の業務の流れ、居宅訪問型保育者のマナー
20	安全の確保とリスクマネジメント	子どもの事故と予防、保育上の留意点、安全チェックリスト
21	居宅訪問型保育の職業倫理と配慮事項	居宅訪問型保育者としての基本姿勢と職業倫理
22	居宅訪問型保育における保護者への対応	居宅訪問型保育における保護者支援の必要性
23	振り返り 実践演習	これまでを振り返りとまとめる 遊び編（居宅での保育における遊び）
24	子どもの虐待①	子どもの虐待とは、子ども虐待の実態
25	子どもの虐待②	子どもの虐待の発見と通告
26	特別に配慮を要する 子どもへの対応（０～２歳児）	気になる行動、対応の仕方、居宅訪問型保育者の役割
27	これまでの振り返り	これまでを振り返りとまとめる
28	一般家庭訪問保育の業務の流れ	家庭訪問保育の業務の流れ
29	さまざまな家庭訪問保育	産後ケア、病児・病後児保育、障害児保育、送迎・同行保育、多胎児の保育、学童の保育
30	まとめ	総まとめ

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	演習	科目名	音楽実践Ⅰ／音楽実践		
必修選択	選択必修	(学則表記)	音楽実践Ⅰ		
開講				単位数	時間数
年次	3年	学科	こども総合学科	2	60
使用教材	３つのコードで楽らく弾けるピアノ伴奏曲集		出版社	ドレミ楽譜出版社	

科目の基礎情報②	
授業のねらい	伴奏アレンジ・移調を含めた総合的なピアノ技術を身につける。
到達目標	和音の機能を理解し、歌の伴奏ができる。 現場の状況に合わせて伴奏をアレンジし、応用できる。
評価基準	授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果(70%)および授業態度と参加の積極性(30%)を踏まえ、総合的な観点で評価する。
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者。成績評価が3以上の者。
関連資格	
関連科目	音楽実践Ⅱ・音楽実践Ⅲ・音楽実践Ⅳ
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。
担当教員	木下　亜紀
実務経験	
実務内容	

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	コード付け導入	コード付け導入、様々な伴奏パターンでの弾き歌い
2	様々な調の3コード	コード付け導入、様々な伴奏パターンでの弾き歌い
3	ハ長調の3コード	様々な伴奏パターンでの弾き歌い
4	様々な調の3コード	様々な伴奏パターンでの弾き歌い
5	ハ長調の3コード	様々な伴奏パターンでの弾き歌い
6	ハ長調の3コード	様々な伴奏パターンでの弾き歌い
7	まとめ	演奏発表
8	様々な調の3コード	移調を含めた弾き歌い
9	ハ長調の3コード	様々な伴奏パターンでの弾き歌い

10	様々な調の3コード	様々な伴奏パターンでの弾き歌い
11	ト長調の3コード	コードネーム、移調を含めた弾き歌い
12	ヘ長調の3コード	様々な伴奏パターンでの弾き歌い
13	ヘ長調の3コード	様々な伴奏パターンでの弾き歌い
14	ヘ長調の3コード	移調を含めた弾き歌い
15	まとめ	弾き歌い発表
16	コード付け	副三和音を学ぶ、様々な伴奏パターンでの弾き歌い
17	様々な調の3コード	様々な伴奏パターンでの弾き歌い
18	ヘ長調の3コード	様々な伴奏パターンでの弾き歌い
19	様々なコード	マイナーコードと借用和音を学ぶ
20	ハ長調の3コード	様々な伴奏パターンでの弾き歌い
21	様々な調の3コード	様々な伴奏パターンでの弾き歌い
22	まとめ	弾き歌い発表
23	ヘ長調の3コード	様々な伴奏パターンでの弾き歌い
24	ハ長調の3コード	経過和音を学ぶ
25	様々な調の3コード	様々な伴奏パターンでの弾き歌い
26	ト長調の3コード	様々な伴奏パターンでの弾き歌い
27	様々な調の3コード	様々な伴奏パターンでの弾き歌い
28	様々な調の3コード	様々なコード、短音階を学ぶ
29	様々な調、コードの仕組み	今まで学んだコードを使い、伴奏付け、弾き歌いをする
30	まとめ	演奏発表

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	演習	科目名	音楽実践Ⅱ／音楽遊び		
必修選択	選択必修	（学則表記）	音楽実践Ⅱ		
開講				単位数	時間数
年次	3年	学科	こども総合学科	2	60
使用教材	第2版アクティブラーニングを取り入れた子どもの発達と音楽表現　幼稚園教諭・保育士養成課程		出版社	学文社	

科目の基礎情報②	
授業のねらい	聴く、歌う、奏でる、動く活動を基に想像性や創造性のある音楽教育へと発展させる知識や技術を身につける。
到達目標	子どもの発達と音楽表現について理解できている。 子どもの発達に応じた音楽教育の知識と技術が身についている。
評価基準	授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果(70%)および授業態度と参加の積極性(30%)を踏まえ、総合的な観点で評価する。
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者。成績評価が3以上の者。
関連資格	
関連科目	音楽実践Ⅰ・音楽実践Ⅲ・音楽実践Ⅳ
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。
担当教員	前田　奈緒
実務経験	
実務内容	

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション 子どもの発達と表現	授業の流れ、到達目標について。領域「表現」の内容を踏まえた音楽表現活動について。
2	音楽の要素と音楽表現（1）	音楽の要素やコミュニケーションツールとしての音楽について、手あそびや歌あそびを通して体験する。（呼吸と拍、テンポと強弱、拍子とリズム、形式とニュアンス、コミュニケーション）
3	音楽の要素と音楽表現（2）	音楽の要素やコミュニケーションツールとしての音楽について、手あそびや歌あそびを通して体験する。（呼吸と拍、テンポと強弱、拍子とリズム、形式とニュアンス、コミュニケーション）
4	音楽の要素と音楽表現（3）	ストーリー性のある表現あそびプログラムの作成を行う。
5	音楽の要素と音楽表現～まとめ	ストーリー性のある表現あそびプログラムの発表を行う。
6	子どもの発達と音楽表現（1）	子供の発達の様子に合った手あそび・歌あそびを学習する。
7	子どもの発達と音楽表現（2）	子供の発達の様子に合った手あそび・歌あそびを学習する。
8	子どもの発達と音楽表現（3）	発達過程にあった遊び方や遊びの展開を立案する。
9	子どもの発達と音楽表現 ～まとめ	発達過程にあった遊び方や遊びの展開を実践する。

10	聴く活動（1）	乳幼児期における聴覚の発達を概観し、表現活動にもつながる聴く活動についての理解を深める。
11	聴く活動（2）	聴く活動に適した曲について学習する。
12	聴く活動～まとめ	子ども向けのクラシック音楽を使って聴く活動につなげる。
13	歌う活動（1）	歌う活動について、保育者に求められる援助の在り方についての理解を深め、保育現場における歌う活動の実践力を培う。
14	歌う活動（2）	歌う活動の実践をする。（わらべうた、歌の情景や心情を味わう）
15	歌う活動～まとめ	保育教材を用いた歌う活動の実践（身体の動きを通して歌を味わう）
16	動く活動	動く活動の実践をする。
17	奏でる活動（1）	奏でる活動の基本的事項について学習する。
18	奏でる活動（2）	リズム譜の書き方の基本を学習する。
19	奏でる活動（3）	奏でる活動を実践する。（ボディーパーカッション）
20	奏でる活動（4）	奏でる活動を実践する。（楽器の組み合わせとリズム打ち）
21	奏でる活動（5）	奏でる活動を実践する。（楽器の組み合わせとリズム打ち）
22	つくる活動（1）	子どもの発達と作る活動について。つくる活動の意義とねらい、つくる活動に伴う音づくりについて学習する。効果音について。
23	つくる活動（2）	効果音を使った表現あそびについて学習する。
24	つくる活動（3）	効果音を使った表現あそびについて学習する。
25	つくる活動～まとめ	効果音を使った表現あそびの発表。
26	つくる活動（4）	手作り楽器の制作をと合奏を行う。
27	つくる活動（5）	音楽劇について学習する。音楽劇の鑑賞を行う。
28	つくる活動（6）	音楽劇について学習する。音楽劇の制作を行う。
29	つくる活動（7）	音楽劇について学習する。音楽劇の制作を行う。
30	総まとめ	音楽劇の発表

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	演習	科目名	音楽実践Ⅲ／リトミック（表現あそび）		
必修選択	選択必修	（学則表記）	音楽実践Ⅲ		
開講				単位数	時間数
年次	3年	学科	こども総合学科	2	60
使用教材	幼稚園・保育園のためのリトミック3、4、5		出版社	リトミック研究センター	

科目の基礎情報②	
授業のねらい	リトミックの指導技術を身に付け、指導資格取得を目的とする。
到達目標	幼稚園・保育園のためのリトミック指導について理解し、その技術を身につけることができている。
評価基準	授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果(70%)および授業態度と参加の積極性(30%)を踏まえ、総合的な観点で評価する。
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者。成績評価が3以上の者。
関連資格	幼稚園・保育園のためのリトミック指導資格（2級・1級）
関連科目	音楽実践Ⅰ・音楽実践Ⅱ・音楽実践Ⅳ
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。
担当教員	市丸　ゆかり　　実務経験　○
実務内容	リトミック研究センター福岡第一支局にて指導スタッフとして勤務(３０年)、Roland ミュージックスクールにて講師として勤務(３５年)

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	リズム-1	オリエンテーション、リトミックについて、楽しいリトミックの経験（1）
2	リズム-2	楽しいリトミックの経験（2）、強弱・テンポ・空間・アクセント（1）、基礎的な動き（1）、基礎リズム（1）（2拍子）
3	リズム-3	楽しいリトミックの経験（3）、基礎的な動き（2）、基礎リズム（2）（2拍子）、拍子（1）
4	リズムの演奏法-1	リズムの演奏法（3歳児指導法-1学期）
5	ティーチング-1	3歳児指導法-1学期
6	リズムの演奏法-2	リズムの演奏法（3歳児指導法-2学期）
7	ティーチング-2	3歳児指導法-2学期
8	リズム-4	楽しいリトミックの経験（4）、基礎リズム（3）（2拍子）、拍子（2）
9	ティーチング-3	3歳児指導法-3学期

10	リズムの演奏法-3	リズムの演奏法（3歳児指導法-3学期）、認定試験内容公示
11	リズム-5	楽しいリトミックの経験（5）、基礎リズム（4）（3・4拍子）、拍子（3）
12	ティーチング-4	3歳児指導法総括-１～3学期
13	リズム-6	楽しいリトミックの経験（6）、リズムカノン（1）導入、リズムフレーズ（1）2・3拍子
14	リズムの演奏法-4	リズムの演奏法（3歳児指導法-１～3学期）
15	前期まとめ	リトミックの理論とダルクローズについて（1）、2級資格認定試験
16	ティーチング-５	4歳児指導法-1学期
17	ティーチング-６	4歳児指導法-2学期
18	リズム-７	楽しいリトミックの経験（7）、リズムカノン（2）（3拍子）、リズムフレーズ（2）2・3拍子
19	リズムの演奏法-5	リズムの演奏法（4歳児指導法-1～2学期）
20	ティーチング-７	4歳児指導法-3学期
21	ティーチング-８	5歳児指導法-1学期
22	リズム-８	楽しいリトミックの経験（8）、リズムカノン（3）（3・4拍子）、複リズム（1）Ostinato
23	リズムの演奏法-6	リズムの演奏法（4歳児指導法-3学期・5歳児指導法-1学期）
24	ティーチング-９	5歳児指導法-2学期
25	ティーチング-１０	5歳児指導法-3学期
26	リズム-9	楽しいリトミックの経験（９）、リズムカノン（4）（３・４拍子）、複リズム（2）Ostinato
27	ティーチング-１１	4・5歳児指導法総括
28	リズム-10	楽しいリトミックの経験（10）、リズムカノン（5）（3・4拍子）、複リズム（3）Ostinato
29	リズムの演奏法-７	リズムの演奏法（5歳児指導法-2～3学期）
30	後期まとめ	リトミックの理論とダルクローズについて（2）、1級資格認定試験

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	演習	科目名	音楽実践Ⅳ／こどもと音楽		
必修選択	選択必修	（学則表記）	音楽実践Ⅳ		
開講				単位数	時間数
年次	3年	学科	こども総合学科	2	60
使用教材	保育士・教師をめざす人、集まれ～！ みんなピアノ大好き！		出版社	全音楽譜出版社	

科目の基礎情報②	
授業のねらい	クラシックやポップスなど幅広い音楽のレパートリーを学習し、保育現場に活かせる音楽表現技術を身に付ける。
到達目標	様々なジャンルの曲を正しく理解し、その曲に合った演奏表現ができる。 ピアノアンサンブルを通して、各パートの内容を理解し演奏することができる。 コードを理解して曲に合ったアレンジをすることができる。
評価基準	授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果(70%)および授業態度と参加の積極性(30%)を踏まえ、総合的な観点で評価する。
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者。成績評価が3以上の者。
関連資格	
関連科目	音楽実践Ⅰ・音楽実践Ⅱ・音楽実践Ⅲ
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。
担当教員	木下　亜紀
実務経験	
実務内容	

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	授業の流れ、到達目標について。
2	マーチ（1）	マーチ曲をコードアレンジやソロ・連弾などを通して学習する。
3	マーチ（2）	マーチ曲をコードアレンジやソロ・連弾などを通して学習する。
4	マーチ（3）	マーチ曲をコードアレンジやソロ・連弾・アンサンブルなどを通して学習する。
5	マーチ（4）	マーチ曲をコードアレンジやソロ・連弾・アンサンブルなどを通して学習する。
6	ダンス（1）	ダンス曲をコードアレンジやソロ・連弾などを通して学習する。
7	ダンス（2）	ダンス曲をコードアレンジやソロ・連弾・アンサンブルなどを通して学習する。
8	まとめ	マーチ・ダンス曲の演奏発表
9	日本の音楽	日本の音楽を（わらべうた等）コードアレンジなどを通して学習する。

10	世界の音楽（1）	世界の様々な音楽について学ぶ。連弾によるアンサンブル学習を行う。
11	世界の音楽（2）	世界の様々な音楽について学ぶ。連弾によるアンサンブル学習を行う。
12	ポップス（1）	ポップス曲をコードアレンジやソロ・連弾などを通して学習する。
13	ポップス（2）	ポップス曲をコードアレンジやソロ・連弾などを通して学習する。
14	ポップス（3）	ポップス曲をコードアレンジやソロ・連弾・アンサンブルなどを通して学習する。
15	まとめ	日本の音楽・世界の音楽・ポップス曲の演奏発表
16	クラシック（1）	クラシック曲について学習する。 曲の背景について調べたり、ピアノ曲以外の作品の鑑賞も行う。
17	クラシック（2）	クラシック曲について学習する。 曲の背景について調べたり、ピアノ曲以外の作品の鑑賞も行う。
18	クラシック（3）	クラシック曲について学習する。 曲の背景について調べたり、ピアノ曲以外の作品の鑑賞も行う。
19	クラシック（4）	クラシック曲について学習する。 曲の背景について調べたり、ピアノ曲以外の作品の鑑賞も行う。
20	クラシック（5）	クラシック曲について学習する。 曲の背景について調べたり、ピアノ曲以外の作品の鑑賞も行う。
21	まとめ	クラシック曲の演奏発表
22	クラシック（６）	クラシック曲のアンサンブル作品について学習する。
23	クラシック（７）	クラシック曲のアンサンブル作品について学習する。
24	クラシック（８）	クラシック曲のアンサンブル作品について学習する。
25	クラシック（９）	クラシック曲のアンサンブル作品について学習する。
26	クラシック（10）	クラシック曲のアンサンブル作品について学習する。
27	まとめ	クラシック曲のアンサンブル作品の演奏発表
28	音楽づくり（1）	様々な音階による即興演奏について学習する。
29	音楽づくり（2）	様々な音階による即興演奏について学習する。
30	1年間のまとめ	成果発表会

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	演習	科目名	食育実践Ⅰ／子どもの食育		
必修選択	選択必修	（学則表記）	食育実践Ⅰ		
開講				単位数	時間数
年次	3年	学科	こども総合学科	2	60
使用教材	子どもの食と栄養 食生活アドバイザー３級		出版社	中央法規 **日本能率協会マネジメントセンター**	

科目の基礎情報②	
授業のねらい	乳幼児の食育のねらいは、望ましい生活や食生活を営む力を育むことにある。保育者としてこどもや保護者の方たちに健康や食に関することを正しく伝えられるように、健康や食に関しての知識を学び、実践力を養う。
到達目標	健康や食に関する幅広い知識を習得し、保育園や幼稚園において食育活動を自ら考え、伝えることを主体的に学び、企画や実施する力を身につける。
評価基準	授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果(70%)および授業態度と参加の積極性(30%)を踏まえ、総合的な観点で評価する。
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者。成績評価が3以上の者。
関連資格	食生活アドバイザー３級
関連科目	食育実践Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実践する。
担当教員	竹内　澄子
実務経験	○
実務内容	保健指導(６年)　病院栄養士(２年)

習熟状況等により日程および授業の展開が変わることがある。

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション 日本人の食生活の目標	食育の授業説明　食育基本法について　資格試験について 自分の食生活を見直してみよう。食生活指針からみる日本人の食生活の課題。
2	子どもの健康と食生活の意義	朝食欠食の原因や食生活全体に与える影響と解決方法、および食の安全問題の現状とその対応策について考える。
3	栄養の基本 栄養素の種類とはたらき	子どもに「食べ物のゆくえ」を理解させる絵と説明を考える。 主なビタミン、ミネラルの生理作用、欠乏症、供給源となる食品についてまとめてみよう。
4	食生活アドバイザー３級第1章 ウェルネス上手になろう	栄養と健康に関する基礎知識
5	食生活アドバイザー３級第1章 ウェルネス上手になろう	模擬問題と解説
6	食生活アドバイザー３級第2章 もてなし上手になろう	食文化と食習慣に関する基礎知識
7	食生活アドバイザー３級第2章 もてなし上手になろう	模擬問題と解説
8	食生活アドバイザー３級第3章 買い物上手になろう	食品学に関する基礎知識
9	食生活アドバイザー３級第3章 買い物上手になろう	模擬問題と解説

10	食生活アドバイザー３級第4章 段取り上手になろう	衛生管理に関する基礎知識
11	食生活アドバイザー３級第4章 段取り上手になろう	模擬問題と解説
12	食生活アドバイザー３級第5章 生き方上手になろう	食マーケットに関する基礎知識
13	食生活アドバイザー３級第5章 生き方上手になろう	模擬問題と解説
14	食生活アドバイザー３級第6章 やりくり上手になろう	社会生活に関する基礎知識
15	食生活アドバイザー３級第6章 やりくり上手になろう	模擬問題と解説
16	食生活アドバイザー３級まとめ	模擬問題と解説
17	食生活アドバイザー３級まとめ	模擬問題と解説
18	食生活アドバイザー３級まとめ と前期のまとめ	模擬試験と解説・復習
19	献立作成・調理の基本	1日分の献立を作ってみよう。あなたの出身地の郷土料理を紹介しよう。
20	乳児期の授乳の意義と食生活	乳幼児調整粉乳を母乳に近づけるための工夫について調べてみよう。
21	乳児期の離乳の意義と食生活	手づかみ食べの重要性について考え、適した食べ物をあげてみよう。
22	幼児期の心身の発達と食生活	３～５歳児の昼食のお弁当の中身を考えよう。おやつの大切さを学び、家庭支援に向けて具体的な与え方を考えてみよう。
23	家庭や児童福祉施設における食事と栄養	３～５歳児の家庭における朝食献立を考えてみよう。保育所で利用する行事食を伝えるポスターを作ってみよう。
24	学童期・思春期の心身の発達と 食生活、生涯発達と食生活	学校給食の特徴、将来の自分の家庭や仕事の将来像について考え、人生の節目に食べたいものをあげてみよう。
25	特別な配慮を要する子どもの食と栄養①	アレルギー疾患生活管理指導表をもとに緊急時対応を考えてみよう。
26	食育の内容と計画、および評価	保育所の子どもたちの課題を確認し、食育の年間計画を作成してみよう。
27	保育における食育の意義・目的 と基本的考え方	食育活動と「教育」をどのように結びつけるのか考えてみよう。
28	地域や家庭と連携した食育の展開①	食育の取り組みを行うための連携が必要な地域の資源、保護者への食育の情報提供の方法について考え、食育活動を企画してみよう。
29	地域や家庭と連携した食育の展開②	食育活動の企画を発表しよう。
30	後期および１年間のまとめ	後期、および１年間の総復習

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	演習	科目名	食育実践Ⅱ/乳幼児の食事		
必修選択	選択必修	（学則表記）	食育実践Ⅱ		
開講				単位数	時間数
年次	3年	学科	こども総合学科	2	60
使用教材	子どもの食と栄養演習　第６版		出版社	建帛社	

科目の基礎情報②	
授業のねらい	保育士、幼稚園教諭等に必要とされる食に関する基礎知識を効果的に身につける。
到達目標	「子どもの食と栄養」で学んだ、豊かで健やかな食生活を送る能力を育てる「食育」について理解できる。履修する学生が、食生活に興味を持つ契機となり、栄養学の重要性を感じられるように、乳幼児期の食事を学ぶことができる。講義と調理実習・演習を通して新しい時代の保育現場で必要な子どもへの理解や保護者支援について理解を深め食育を実践できる力を養う。
評価基準	授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果(70%)および授業態度と参加の積極性(30%)を踏まえ、総合的な観点で評価する。
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者。成績評価が3以上の者。
関連資格	
関連科目	食育実践Ⅰ・Ⅲ・Ⅳ
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実践する。
担当教員	竹内　澄子
実務経験	○
実務内容	保健指導(６年)　病院栄養士(２年)

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	授業予定、到達目標について
2	第1章子どもの健康と食生活の意義	子どもの心身の健康と食生活
3	第1章子どもの健康と食生活の意義	子どもの食生活の現状と課題・食に関する指針
4	第1章子どもの健康と食生活の意義	○演習：食生活のチェック表作成
5	第2章栄養と食品に関する基礎的知識	栄養の基本的概念と栄養素の働き・日本人の食事摂取基準
6	第2章栄養と食品に関する基礎的知識	食品の基礎知識
7	第2章栄養と食品に関する基礎的知識	○演習：食品構成測定・食品表示
8	第2章栄養と食品に関する基礎的知識	○演習：献立作成と調理の基本

9	第2章栄養と食品に関する基礎的知識	◎調理実習：1日の献立
10	第2章栄養と食品に関する基礎的知識	◎調理実習：1日の献立
11	第3章子どもの発育・発達と栄養生理	子どもの発育と発達
12	第3章子どもの発育・発達と食生活	子どもの栄養と生理
13	第４章子どもの発育・発達と食生活	授乳期の意義と食生活
14	第４章子どもの発育・発達と食生活	〇演習：母乳育児支援　（調査）・調乳体験
15	まとめ・ふり返り	前期のまとめ・ふり返り
16	第４章子どもの発育・発達と食生活	離乳期の意義と食生活
17	第４章子どもの発育・発達と食生活	◎調理実習：離乳食
18	第４章子どもの発育・発達と食生活	〇演習：離乳期の食育の実践
19	第４章子どもの発育・発達と食生活	〇演習：幼児の食事バランスガイドの活用
20	第４章子どもの発育・発達と食生活	◎調理実習：幼児期の間食
21	第４章子どもの発育・発達と食生活	〇演習：幼児期のお弁当
22	第４章子どもの発育・発達と食生活	〇演習：食教育媒体・演習・幼児期の食育
23	第５章子どもの発育・発達と食生活Ⅱ	学童期・思春期の心身の発達と食生活
24	第５章子どもの発育・発達と食生活Ⅱ	妊娠期の心身の食生活　　〇演習:妊婦の食事バランスガイドの活用
25	**第6章食の基本と内容**	〇演習：食育指導計画の作成・及び家庭への周知
26	**第7章家庭や児童福祉施設における食事と栄養**	〇演習：保護者に向けてのお便りの作成・児童福祉施設における食事
27	**第８章特別な配慮を要する子どもの食と栄養**	〇演習：食物アレルギーへの対応・障害がある子どもへの対応
28	まとめ・ふり返り	後期のまとめ・ふり返り
29	第８章特別な配慮を要する子どもの食と栄養	〇演習：疾病・体調不良・アレルギー・障害がある子どもへの対応
30	ふり返り　まとめ	1年間のまとめ

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	演習	科目名	食育実践Ⅲ／季節のごはん		
必修選択	選択必修	（学則表記）	食育実践Ⅲ		
開講				単位数	時間数
年次	3年	学科	こども総合学科	2	60
使用教材	食で楽しむ年中行事12か月		出版社	あいり出版	

科目の基礎情報②	
授業のねらい	日本の四季折々の行事の由来と行事食について実際に「行事食」を調理し、体験することにより理解を深める。
到達目標	子どもに『行事の由来』や『日本の伝統文化』を伝える知識と技術を習得する。行事食を調理し、体験することで食の大切さを子どもたちに伝えることが出来る。
評価基準	授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果(70%)および授業態度と参加の積極性(30%)を踏まえ、総合的な観点で評価する。
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者。成績評価が3以上の者。
関連資格	
関連科目	食育実戦　Ⅰ・Ⅱ・Ⅳ
備考	原則この科目は対面授業形式にて実施する。
担当教員	石井　聡子
実務経験	○
実務内容	食品会社商品開発室（商品の企画・開発）、料理研究家（各種料理教室、雑誌の料理企画、テレビの料理コーナー出演）等の豊富な経験あり。現在は給食調理士として保育園に勤務。

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	行事と保育における食育との関連性を説明する。
2	春の行事食	春の行事食について調べる。
3	四月：花見・花祭り	お花見・花祭りについての知識を身につける。
4	春の行事食調理①	お花見弁当やお花見団子を調理する。
5	五月：八十八夜・端午の節句	端午の節句・八十八夜についての知識を身につける。
6	春の行事食調理②	若竹汁・鯉のぼりごはん・竹の子ごはんや中華ちまき窓を調理する。
7	六月；梅雨・夏越の祓	おにぎり・魚の梅煮・梅干しやゆかりを使った副菜を考案し調理する。クエン酸について調べる。
8	春の行事食調理③	アジサイゼリー・かえるパン等季節を感じるメニューを考え調理する。

9	まとめ	春の行事と行事食について確認する。
10	プレゼンテーション	調べたことを発表する。
11	七月：七夕・土用の丑	夏の行事食について調べる.7月：七夕（織姫彦星について）知識を身につける。
12	夏の行事食調理①	七夕そうめん・天の川ゼリーなどの行事食を調理する。
13	八月：八朔・お盆	8月：お盆の時のお祭りやの日本の風習について学ぶ
14	夏の行事食調理②	夏野菜カレー・すいかパンチ・地域の郷土料理についてや夏野菜の栄養成分効果的な食べ方を知る。
15	まとめ	夏の行事と行事食について確認
16	九月：十五夜・重陽の節句	９月：十五夜・菊の花　の行事や幼児が誤嚥しにくい調理法を学ぶ。
17	秋の行事食調理①	中華風おこあ・菊の花の酢の物・月見団子を調理する。
18	十月：亥の子・月見	10月：お月見について学ぶ。お供えや掲示物の簡単な制作をする。
19	秋の行事食調理②	がんづき・シェパーズパイ・里芋料理 を調理する。
20	十一月：新嘗祭・七五三	11月：七五三の由来　・冬至かぼちゃ・箸のマナーについての知識を身につける。
21	秋の行事食調理③	かぼちゃパイ・スイートポテトを成形し調理する。
22	十二月：大根焚き・冬至	12月クリスマス・日本に伝わる食に関する知識・ことわざについて学ぶ。
23	冬の行事食調理①	カレーピラフ・ローストチキン・サラダ・スープを調理する。
24	一月：正月：冬の行事食調理②	１月：おせち料理・だし巻き卵・雑煮等を調理し、由来や地域性を知る。
25	二月：節分・針供養	２月：節分について理解を深める。鬼のお面を作る。大豆の栄養を知る。
26	三月：桃の節句：冬の行事食調理③	３月：桃の節句について学び、調理する。ちらし寿司・桜餅・紅白真珠蒸し、から1つ調理する。
27	まとめ	秋・冬の行事と行事食について確認
28	生徒メニュー考案	卒園式：子どもが喜ぶ献立を生徒自身が考案する。
29	まとめの調理	自ら立てたレシピと栄養について調べ調理する。レポートを提出する。
30	プレゼンテーション準備	１年を通して学んだことを発表する。

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	演習	科目名	食育実践Ⅳ／こどもとおやつ		
必修選択	選択必修	（学則表記）	食育実践Ⅳ		
開講				単位数	時間数
年次	3年	学科	こども総合学科	2	60
使用教材	子どもに食べさせたいおやつ		出版社	暮らしの手帳社	

科目の基礎情報②	
授業のねらい	子どもの間食（おやつ）についての知識を習得し、食育の実践に結びつけられるよう、調理実習を通じて学ぶ。
到達目標	・子どもの適切な間食（おやつ）の提案ができる。 ・基本的な調理ができる。 ・時節にあった食材を知る。 ・子どもと楽しく、食教育ができる保育士になる。
評価基準	授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果(70%)および授業態度と参加の積極性(30%)を踏まえ、総合的な観点で評価する。
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者。成績評価が3以上の者。
関連資格	
関連科目	食育実践Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。
担当教員	石井　聡子　　実務経験　○
実務内容	食品会社商品開発室（商品の企画・開発）、料理研究家（各種料理教室、雑誌の料理企画、テレビの料理コーナー出演）等の豊富な経験あり。現在は給食調理士として保育園に勤務。

習熟状況により授業の展開の変更あり。

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	授業の流れ、到達目標について、調理器具、実習室利用の説明、簡単なおやつ
2	毎日のおやつ（春夏）①	ごはんのおやつ
3	毎日のおやつ（春夏）②	ジャガイモのおやつ
4	毎日のおやつ（春夏）③	葛のおやつ
5	週末のおやつ（春夏）①	大豆のおやつ
6	週末のおやつ（春夏）②	バナナのおやつ
7	週末のおやつ（春夏）③	噛み応えのあるおやつ
8	特別な日のおやつ（春夏）①	お誕生日メニュー

9	特別な日のおやつ（春夏）②	冷たいおやつ①
10	特別な日のおやつ（春夏）③	冷たいおやつ②
11	行事・郷土のおやつ（春夏）	地域の郷土料理、行事のおやつ
12	生徒の考えるおやつ①	レシピ企画；生徒が幼児に適したおやつを考案し、検討する
13	生徒の考えるおやつ②	レシピ作成；生徒がつくるおやつのレシピ作成する
14	生徒の考えるおやつ③	調理の実施；生徒の作ったおやつレシピを調理し、試食、考察する
15	まとめ	前期のふりかえり
16	毎日のおやつ（秋冬）①	お芋のおやつ①
17	毎日のおやつ（秋冬）②	お芋のおやつ②
18	毎日のおやつ（秋冬）③	大根のおやつ
19	週末のおやつ（秋冬）①	人参のおやつ
20	週末のおやつ（秋冬）②	米粉のおやつ
21	週末のおやつ（秋冬）③	温かいおやつ
22	特別な日のおやつ（秋冬）①	小豆のおやつ
23	特別な日のおやつ（秋冬）②	お餅のおやつ
24	特別な日のおやつ（秋冬）③	行事のおやつ
25	行事・郷土のおやつ（秋冬）①	地域の郷土料理のおやつ
26	アレルギー対応のおやつ	卵、乳製品をつかわないおやつ
27	生徒の考えるおやつ（秋冬）	レシピ企画；生徒が幼児に適したおやつを考案し、検討する
28	生徒の考えるおやつ（秋冬）	レシピ作成；生徒がつくるおやつのレシピ作成する
29	生徒の考えるおやつ（秋冬）	調理の実施；生徒の作ったおやつレシピを調理し、試食、考察する
30	まとめ	後期、および一年の振り返り

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	演習	科目名	デザイン実践Ⅰ(こどもとプログラミング)		
必修選択	選択必修	(学則表記)	デザイン実践Ⅰ		
開講				単位数	時間数
年次	3年	学科	こども総合学科	2	60
使用教材	先生のための小学校プログラミング教育がよくわかる本		出版社	一般社団法人みんなのコード監修	

科目の基礎情報②	
授業のねらい	プログラミング教育を理解し必要な知識やスキルを習得するとともに、プログラミング的思考を身に付け、自分が意図する一連の活動を実現するための問題解決力を高めることにより、保育現場において子どもの年齢に応じた適切な学びのツールや環境作りを行うことができる人材を目指す。 ICTシステムなど業務のICT化が進んでいる現場に問題なく対応できるスキルの習得を目指す。
到達目標	身近な生活でコンピューターが活用されていること、問題の解決には必要な手順があることを理解している。 プログラミング教育の概要を理解し、発達段階に即したプログラミング的思考の育成に必要な基礎的スキルを身につけている。(コンピューターやプログラミングの概念にもとづいた問題解決型の思考)
評価基準	授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果(70%)および授業態度と参加の積極性(30%)を踏まえ、総合的な観点で評価する。
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者。成績評価が3以上の者。
関連資格	ジュニア・プログラミング検定　日商プログラミング ENTRY　ITパスポート
関連科目	デザイン実践Ⅱ・デザイン実践Ⅲ・デザイン実践Ⅳ
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。
担当教員	児玉　のりこ　　実務経験
実務内容	

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	授業のねらい・到達目標についての説明、導入
2	コンピュータとプログラミング	コンピューターとプログラム、プログラミングについて
3	プログラミング教育が目指すもの	政府、文部科学省などそれぞれの立場からプログラミング教育を実施して目指すものとは ソサエティ5.0について
4	新小学校学習指導要領と解説	プログラミング教育の位置付けについて
5	小学校でプログラミング教育を実施するポイント	小学校現場においてのプログラミング教育実施方法
6	プログラミング教育の授業実践例1	小学校の現場のICT機器の整備状況、使用ツールについて
7	プログラミング教育の授業実践例2	小学校の現場のICT機器の整備状況、使用ツールについて

8	保育現場におけるICT環境整備の在り方について	保育現場のICT機器の整備状況や在り方について
9	アンプラグドプログラミング	アンプラグドプログラミングとは、教材について
10	カリキュラム案の作成1	保育現場におけるアンプラグドプログラミングによるプログラミング教育のカリキュラム案と教材の作成
11	カリキュラム案の作成2	保育現場におけるアンプラグドプログラミングによるプログラミング教育のカリキュラム案と教材の作成
12	カリキュラム課題についてのプレゼン資料制作1	保育現場におけるアンプラグドプログラミングを使ったプログラミング教育のカリキュラム案と教材についてのプレゼン資料の作成
13	カリキュラム課題についてのプレゼン資料制作2	保育現場におけるアンプラグドプログラミングを使ったプログラミング教育のカリキュラム案と教材についてのプレゼン資料の作成
14	課題についてのプレゼン発表・まとめ	プレゼン発表と質疑応答、相互評価、まとめ
15	前期テスト	テストを実施する
16	テストのまとめ、前期の振り返り	テストの振り返りと前期のまとめを行う
17	viscuitによるプログラミング1	ビスケットの使い方、ボタンの説明 いろいろな動きを作る
18	viscuitによるプログラミング2	ゲームを作る
19	Scratchによるプログラミング1	Scrachの基本を身につける
20	Scratchによるプログラミング2	Scratchを用いてプログラムの流れを把握する
21	Scratchによるプログラミング3	Scratchを用いて変数とリストを理解する
22	Scratchによるプログラミング4	Scratchを用いてメソッドの使い方、並行処理と並列処理を理解する
23	Scratchによるプログラミング5	Scratchによるゲーム作成を行う
24	教材とカリキュラム案の作成1	保育現場におけるビジュアルプログラミングツールによるプログラミング教育のカリキュラム案と教材の作成
25	教材とカリキュラム案の作成2	保育現場におけるビジュアルプログラミングツールによるプログラミング教育のカリキュラム案と教材の作成
26	教材作成、カリキュラム課題についてのプレゼン資料制作1	保育現場におけるビジュアルプログラミングツールを使ったプログラミング教育のカリキュラム案と教材についてのプレゼン資料の作成
27	教材作成、カリキュラム課題についてのプレゼン資料制作2	保育現場におけるビジュアルプログラミングツールを使ったプログラミング教育のカリキュラム案と教材についてのプレゼン資料の作成
28	課題についてのプレゼン発表・まとめ	プレゼン発表と相互評価、まとめ
29	後期確認テスト	テストを実施する
30	総まとめ	テストの振り返りと1年間の総まとめ

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	演習	科目名	デザイン実践Ⅱ(保育とビジネススキル)		
必修選択	選択必修	(学則表記)	デザイン実践Ⅱ		
開講				単位数	時間数
年次	3年	学科	こども総合学科	2	60
使用教材	"入社1年目ビジネスマナーの教科書"☒		出版社	プレジデント社	

科目の基礎情報②	
授業のねらい	①社会人として必要なビジネススキルを身につける ②保育現場のICT化について学び、アプリの活用方法について身に付ける
到達目標	一般的なビジネススキルと共に、保育教育現場でのマナーやルールを身につける。 実際の保育現場で活用されるアプリを使用し、保護者への発信方法ややり取りについて学ぶ。
評価基準	授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果(70%)および授業態度と参加の積極性(30%)を踏まえ、総合的な観点で評価する。
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者。成績評価が3以上の者。
関連資格	なし
関連科目	デザイン実践Ⅰ・デザイン実践Ⅲ・デザイン実践Ⅳ
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。
担当教員	中山　麻見　他１名
実務経験	
実務内容	

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	授業ガイダンス	授業の概要、到達目標の説明
2	基本のビジネスマナー①	基本の身だしなみ・立ち居振る舞い・自己紹介
3	基本のビジネスマナー②	来客対応、名刺交換、お茶出しマナー
4	コミュニケーション	話し方・聞き方について
5	電話応対	電話応対（受け方、かけ方、保留等）
6	一般的なクレーム対応	クレーム対応（保護者以外）
7	ビジネス敬語	ビジネス敬語の使い方
8	ビジネスメール	ビジネスメールの作成ルールや活用のルール
9	冠婚葬祭マナー 食事のマナー	冠婚葬祭の際のマナーや会食の時などの食事のマナー

10	先輩、上司との関わりかた	指示の受け方、報連相について
11	保護者対応①	保護者との関わり方（相談の受け方）
12	保護者対応②	保護者との関わり方（伝え方）
13	保護者対応③	保護者との関わり方（クレーム対応、お詫びの仕方）
14	社会人モラル	基本的な社会人モラル
15	保育者モラル	保育者としてのモラル まとめのテスト実施
16	基本の文書作成１	文書の基本、社内向け文書の作成（報告書、提案書、依頼書）
17	基本の文書作成２	社外向け文書の作成（依頼書、お礼状、お詫び状、送付状） こどもんアプリの説明
18	保育教育現場の文書作成１	園からのお知らせ、行事のお知らせ作成①
19	保育教育現場の文書作成２	園からのお知らせ、行事のお知らせ作成②（PC／こどもんアプリにて作成）
20	保育教育現場の文書作成３	連絡帳記入（PC／こどもんアプリにて作成）
21	聞き取った内容をまとめる	議事録作成
22	オリジナル文書の作成１	クラスだより作成①
23	オリジナル文書の作成２	クラスだより作成②（PC／こどもんアプリにて作成）
24	雛型への入力	月案の作成（PC／こどもんアプリにて作成）
25	計画書の作成①	行事計画の作成①
26	計画書の作成②	行事計画の作成②
27	招待状等の作成	招待状・プログラムの作成
28	エクセルを活用した表の作成	勤務表作成
29	報告書の作成・確認テスト	研修報告書作成 後期小テスト実施
30	まとめ	まとめ

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	演習	科目名	デザイン実践Ⅲ(キッズデジタルアート)		
必修選択	選択必修	(学則表記)	デザイン実践Ⅲ		
開講				単位数	時間数
年次	3年	学科	こども総合学科	2	60
使用教材	パソコン（Filmora）		出版社		

科目の基礎情報②	
授業のねらい	①SNSなどの活用においての個人情報の取り扱いについて学ぶ ②PCを用いた動画編集スキルを学ぶ
到達目標	・個人情報の重要性を知り、SNSの使用できる方法を学ぶ ・写真撮影や動画編集スキルを学び、アウトプットできる力を身につける ・保育技術を動画編集を用いて発信できるスキルを身につける
評価基準	テスト/レポート（作成物・発表内容）：７0%　授業態度：３0%
認定条件	出席が総時間数の２/３以上ある者 成績評価が３以上の者
関連資格	
関連科目	デザイン実践Ⅰ・デザイン実践Ⅱ・デザイン実践Ⅳ
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。
担当教員	渡邊　綾香
実務経験	
実務内容	

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	授業ガイダンス	オリエンテーション・個人情報
2	SNSについて	SNS／WEBを学ぶ（Twitter・Instagram・YouTube・HP・著作権・肖像権・個人情報など）
3	SNS配信について	SNS／WEBでの写真アップ・動画配信方法を学ぶ
4	動画編集方法	動画編集を学ぶ（Filmoraの使い方）
5	動画編集①	制作物立案・作成①
6	動画編集①	制作物立案・作成②
7	動画編集①	制作物立案・作成③
8	動画編集①	制作物立案・作成④
9	動画編集①	動画作成①（作品をデータ化・取り込み）

10	動画編集①	動画作成②（文字入れ・アニメーションを入れる）
11	動画編集①	動画作成③（音声の入れ方）
12	動画編集①	動画作成④（全体編集）
13	動画編集①	発表
14	動画編集①	反省をふまえ・動画の改善・配信（YouTubeやInstagramなど）準備
15	動画編集①	授業の振り返り（前期まとめ）
16	写真撮影	写真撮影について学ぶ　※カメラマンなどからの授業
17	写真撮影	学内にて写真撮影・動画撮影の練習
18	写真撮影	保育現場にて写真撮影実施
19	動画編集②	保育現場にて動画撮影実施
20	動画編集②	動画編集における写真及び動画の精査
21	動画編集②	撮影した写真・動画の編集①
22	動画編集②	撮影した写真・動画の編集②
23	動画編集②	撮影した写真・動画の編集③
24	動画編集②	撮影した写真・動画の編集④
25	動画編集②	中間発表
26	動画編集②	動画編集・再編集①
27	動画編集②	動画編集・再編集②
28	動画編集②	完成版動画発表
29	動画編集②	撮影した保育園へ動画を提供・配信
30	まとめ	学習の振り返り

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	演習	科目名	デザイン実践Ⅳ(ITスキル実践)		
必修選択	選択必修	(学則表記)	デザイン実践Ⅳ		
開講				単位数	時間数
年次	3年	学科	こども総合学科	2	60
使用教材	30時間でマスターoffice 2019 or 2021 （各校PCのバージョンによる選択） パソコン技能検定　対策問題集２級		出版社	実教出版企画開発部 ユアサポート	

科目の基礎情報②	
授業のねらい	保育現場で必要とされるパソコン・ITスキルの応用を理解する
到達目標	パソコン技能検定2級に合格する 画像や図形を使った文書作成ができる 関数やグラフを使った表計算を作成できる
評価基準	授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果(70%)および授業態度と参加の積極性(30%)を踏まえ、総合的な観点で評価する。
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者。成績評価が3以上の者。
関連資格	パソコン技能検定2級～３級
関連科目	デザイン実践Ⅰ・デザイン実践Ⅱ・デザイン実践Ⅲ
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。
担当教員	渡邊　綾香
実務経験	
実務内容	

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	授業の流れ、到達目標、成績評価の基準について説明
2	インターネットを安全に利用するために	・P30～31 ・インターネット利用上の注意、ネチケット、著作権について
3	試験対策①	・学科問題、入力問題、文書作成、表計算それぞれ問題集から演習を行う ・学科問題の傾向と対策、演習
4	試験対策②	・学科問題、入力問題、文書作成、表計算それぞれ問題集から演習を行う ・学科問題の傾向と対策、演習
5	試験対策③	・文書作成の演習 ・ページ設定、インデント設定、中央揃え、ルビの設定
6	試験対策④	・文書作成の演習 ・セル幅で均等割り付け、割注、段組み
7	試験対策⑤	・文書作成の演習 ・図形の挿入、表の属性、オンライン画像、罫線
8	試験対策⑥	・表計算問題の演習 ・列の幅や高さの設定、罫線

9	試験対策⑦	・表計算問題の演習 ・関数、絶対参照
10	試験対策⑧	・表計算問題の演習 ・関数、絶対参照
11	試験対策⑨	・表計算問題の演習 ・グラフの作成
12	試験対策⑩	・表計算問題の演習 ・グラフの作成
13	試験対策⑪	模擬試験
14	試験対策⑫	模擬試験
15	前期まとめ	前期の振り返りまとめを行う
16	文書の作成	・P53～62 ・基本的な文書の構成、文字の拡大・縮小、文字の装飾
17	表の編集	・P69～76 ・行の挿入と削除、セルの結合と配置、線種の変更、セルの網掛け、表のスタイル、表のプロパティ
18	画像や図形を活用した文書の作成	・P77～90 ・ページの色、ページ罫線の利用、ワードアートの利用、文字の効果、図形の描写と回転、
19	画像や図形を活用した文書の作成	・P77～90 ・画像の挿入と配置とサイズ変更、文書表示倍率の変更、テキストボックスの挿入
20	基本的なワークシート編集	・P112～119 ・計算式の入力、再計算と演算子、表示形式の変更、列幅の変更、表示位置の変更、書式の変更
21	関数を使った計算式	・P120～127 ・合計（SUM）、平均（AVERAGE)、最大（MAX）、最小（MIN）、数を数える（COUNT・COUNTA）
22	関数を使った計算式	・P120～127 ・合計（SUM）、平均（AVERAGE)、最大（MAX）、最小（MIN）、数を数える（COUNT・COUNTA）
23	小数点とセルの参照	・P128～133 ・パーセントスタイルと小数部表示の調節、小数点を操作する関数、相対参照と絶対参照、割合を求める
24	小数点とセルの参照	・P128～133 ・パーセントスタイルと小数部表示の調節、小数点を操作する関数、相対参照と絶対参照、割合を求める
25	グラフ	・P142～151 ・グラフの作成、、項目の追加、離れたデータを使ったグラフ
26	条件判定と順位付け	・P152～160 ・条件判定（IF）、IF関数の使い方、複合条件による判定、順位付け（RANK.EQ）
27	検索関数の利用	・P161～167 ・列の検索（VLOOKUP)、条件に一致するセルの計算（COUNTIF・SUMIF）
28	Excelの便利な機能	・P168～179 ・セルの参照機能、文字列の結合、セルの条件付き書式、並べ替え
29	Excelの便利な機能	・P178～185 ・フィルター、セルの結合
30	後期まとめ	後期の振り返りまとめを行う

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	実習	科目名	インターンシップ		
必修選択	選択	（学則表記）	インターンシップ		
開講				単位数	時間数
年次	3年	学科	こども総合学科	2	90
使用教材	なし			出版社	なし

科目の基礎情報②	
授業のねらい	責任ある立場での職業体験を通じて、働くことの意味や厳しさ（楽しさ）を体感し、就職活動の幅を広げる。
到達目標	・学んできたことを活かす楽しさを知る。 ・実際の職場での体験を通じて、自分自身の適性を確認する。 ・自分の力を発揮できる就職先を見つける。
評価基準	提出物や面接結果（70%）および参加姿勢（30%）を踏まえ、総合的な観点で評価する。
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者。成績評価が3以上の者。
関連資格	
関連科目	
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。
担当教員	尾崎　宏太　他１名
実務経験	
実務内容	

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります